6章 システム構成を変更するときは

1 東芝HWセットアップ 134
2 BIOSセットアップ 138
3 パスワードの設定 152

1 東芝HWセットアップ

ハードウェアの設定を変更できます。

起動方法

1 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［プリンタとその他のハードウェア］をクリックする

3 ［東芝HWセットアップ］をクリックする

■［全般］タブ

BIOSセットアップのバージョンなどを表示します。

- ［標準設定］ボタン
  東芝HWセットアップの設定をご購入時の状態に戻します。
- ［バージョン情報］ボタン
  東芝HWセットアップのバージョンを表示します。

■［パスワード］タブ

パソコンの電源を入れたときに入力するパスワードの登録や削除を行います。

参照 パスワードについて ➲「本章 3 パスワードの設定」

■［デバイスの設定］タブ

パソコンが起動したときに BIOS セットアップが初期化するデバイスを指定します。

【デバイスの設定】

- 全デバイス設定
  すべてのデバイスを初期化します。
- OS による設定（標準値）
  システムをロードするのに必要なデバイスのみ初期化します。それ以外のデバイスはシステムが初期化します。

■［ディスプレイ］タブ

パソコンが起動したときに表示する装置を選択します。

【起動時の表示装置】

- 内部／外部を自動選択（標準値）
  システム起動時に、外部 CRT ディスプレイが接続されている場合は、外部 CRT ディスプレイだけに表示します。システム起動時に、外部 CRT ディスプレイが接続されていない場合は、本体のディスプレイに表示します。
- 内部／外部を同時使用
  外部ディスプレイと本体のディスプレイの両方に表示します。

参照 CRT ディスプレイの接続 ➲「4 章 6 CRT ディスプレイの接続」

■［CPU］タブ

CPU に関する設定を行います。

【CPU 周波数の設定】

- ダイナミック切替モード（標準値）
  CPU の消費電力・周波数自動切り替え機能を有効にし、使用状況に応じて CPU 周波数を自動的に切り替えます。
- 常時高速モード
  CPU の消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、常時、高周波数で動作します。
- 常時標準モード
  CPU の消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、常時、低消費電力・低周波数で動作します。

■［OS の起動］タブ

OS の起動について設定します。

【OS の起動】

システムを起動するディスクドライブの順番を選択します。
通常は［HDD → FDD → CD-ROM → LAN］に設定してください。

【ネットワークブートプロトコル】

ネットワークからの起動について設定します。

- PXE（標準値）
  PXE プロトコルに設定します。
- RPL
  RPL プロトコルに設定します。

■［キーボード］タブ

キーボードについて設定します。

【キーボードによるスタンバイ復帰】

この機能を有効にすると、キーボードからの入力で、スタンバイから復帰できます。

- 有効する
- 無効にする（標準値）

■［USB］タブ

USB 対応機器について設定します。

【USB キーボード／マウス レガシーサポート】

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- 有効にする（標準値）
  レガシーサポートを行います。ドライバなしで USB キーボード、USB マウスが使用できます。
- 無効にする
  レガシーサポートを行いません。

【USB フロッピーディスク レガシーサポート】

USB フロッピーディスクドライブのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- 有効にする（標準値）
  レガシーサポートを行います。フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。
- 無効にする
  レガシーサポートを行いません。

■［LAN］タブ

LAN 機能に関する設定を行います。

【LAN のウェイクアップ】

LAN のウェイクアップ機能とは、ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れる機能です。
LAN のウェイクアップ機能を使用する場合は、必ず AC アダプタを接続してください。

- 使用する
- 使用しない（標準値）

【内蔵 LAN】

内蔵 LAN（有線 LAN デバイス）を使用するかどうかを設定します。

- 使用する（標準値）
- 使用しない

詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

1 ［東芝 HW セットアップ］を起動後、画面右上の ? をクリックする
ポインタが ?? に変わります。

2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

2 BIOS セットアップ

BIOS（バイオス）セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。

BIOS セットアップをご使用になる前に

- 通常、システム構成の変更は Windows 上の「東芝 HW セットアップ」、「東芝省電力ユーティリティ」、システムの「デバイスマネージャ」などで行ってください。
  BIOS セットアップと Windows 上の設定が異なる場合、Windows 上の設定が優先されます。
- ご使用のシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOS セットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリが消耗した場合は標準設定値に戻ります。

1 起動と終了

起動方法

1 Esc キーを押しながら電源を入れる

「Password = 」と表示された場合は、ユーザパスワードが登録されています。ユーザパスワードを入力し、Enter キーを押してください。

参照 ユーザパスワードについて ➲「本章 3 パスワードの設定」

「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 F1 キーを押す

BIOS セットアップが起動します。

終了方法

変更した内容を有効にして終了します。

1 Fn＋→キーを押す

本製品では、Fn＋→がEndキーの機能を持ちます。
画面にメッセージが表示されます。

2 Yキーを押す

設定内容が有効になり、BIOS セットアップが終了します。
変更した項目によっては、再起動されます。

途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合に行います。この場合は変更した内容はすべて無効になります。設定値は変更前の状態のままです。

1 Escキーを押す

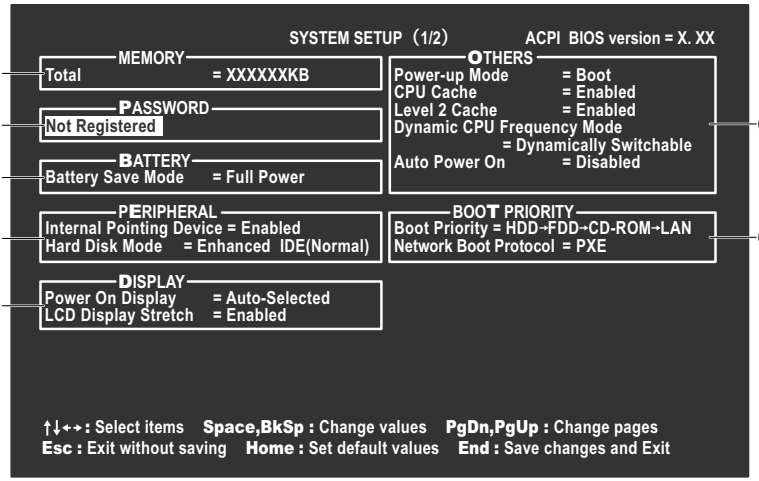
画面にメッセージが表示されます。

2 Yキーを押す

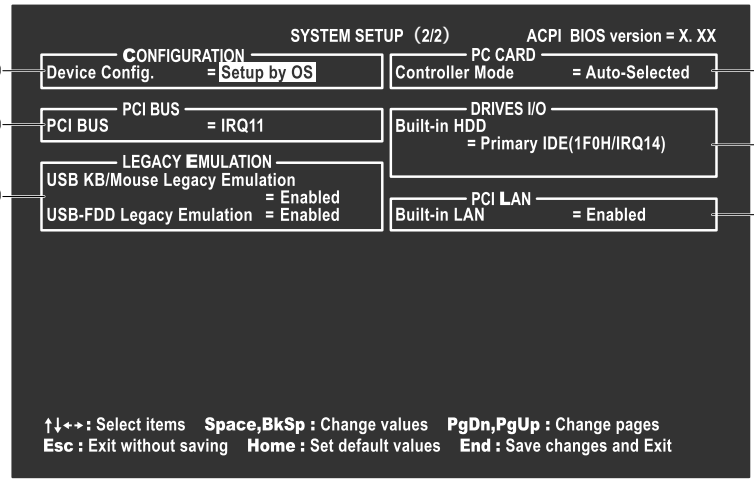
BIOS セットアップが終了します。

2 画面と基本操作

BIOS セットアップには次の２つの画面があります。



（注）画面は標準設定値の表示例です。



（注）画面は標準設定値の表示例です。

参照 設定項目の詳細について ➲「本節 3 設定項目」

基本操作は次のとおりです。

■ 変更したい項目を選択する

↑、↓、←、→キーを押す

項目が移動します。
画面中で反転している部分が現在変更できる項目です。

■ 項目の内容を変更する

Spaceまたは BackSpaceキーを押す

項目の内容が変わります。

■ 画面を切り替える

Fn＋↓または Fn＋↑キーを押す

本製品では、Fn＋↓がPgDn、Fn＋↑がPgUpキーの機能を持ちます。
次の画面または前の画面に切り替わります。

■ 設定内容を標準値にする

Fn＋←キーを押す

本製品では、Fn＋←がHomeキーの機能を持ちます。
次の項目以外は、設定が標準設定になります。

- PASSWORD
- Hard Disk Mode
- Write Policy

3 設定項目

カーソルが移動しない項目は、変更できません（参照のみ）。
ここでは、標準設定値を「標準値」と記述します。

① MEMORY—メモリ容量を表示する

【Total】
本体に取り付けられているメモリの総メモリ容量が表示されます。

② PASSWORD—パスワードの登録／削除をする

参照 ユーザパスワードの登録／削除の方法 ➲「本章 3-1 ユーザパスワード」

【Not Registered】
パスワードが設定されていないときに表示されます（標準値）。

【Registered】
パスワードが設定されているときに表示されます。

③ BATTERY—バッテリで長く使用するための設定をする

【Battery Save Mode】
バッテリセーブモードを設定します。
「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウが開きます。
「User Setting」を選択した場合のみ、設定の変更ができます。

メモ
- Windows を使用している場合は「東芝省電力ユーティリティ」の設定が有効になり、「Battery Save Mode」の設定は無効になります。
- 「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウを閉じるには、↑↓キーを押して選択項目を「Cooling Method」の外に移動します。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの設定項目は次のように表示されます。
「System Auto Off」は「Power-up Mode」が「Resume」の場合のみ表示されます。

●Full Power（標準値）	●Low Power	●User Setting（設定例）
Processing Speed = High	Processing Speed = Low	Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off = 30Min.	Display Auto Off = 03Min.	Display Auto Off = 03Min.
HDD Auto Off = 30Min.	HDD Auto Off = 03Min.	HDD Auto Off = 03Min.
System Auto Off = Disabled	System Auto Off = 30Min.	System Auto Off = 30Min.
LCD Brightness = Bright*1 Super-Bright*2	LCD Brightness = Semi-Bright*1 Bright*2	LCD Brightness = Semi-Bright
Cooling Method = Maximum Performance	Cooling Method = Battery Optimized	Cooling Method = Battery Optimized

（注）LCD Brightness（内部液晶ディスプレイ輝度）の表示は次の状態で変わります。
＊1 バッテリ駆動時
＊2 ACアダプタ使用時

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

● Processing Speed
処理速度を設定します。
使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。
・High ..... 処理速度を高速に設定する
・Low ..... 処理速度を低速に設定する

● CPU Sleep Mode
CPUが処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。
一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。
・Enabled .....電力消費を低減する
・Disabled .....電力消費を低減しない

● Display Auto Off（表示自動停止時間）
時間を設定すると、設定した時間以上キーを押さない場合（タブレットペンやタッチパッドの操作も含む）にディスプレイを消灯して節電します。
画面に表示されている内容が見えなくなりますが、これは故障ではありません。画面に表示するには、Shiftキーを押すか、タブレットペン、タッチパッドを操作してください。
・Disabled .....自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。

● HDD Auto Off（HDD 自動停止時間）
設定した時間以上ハードディスクの読み書きをしない場合に、ハードディスクの回転を止めて節電します。
自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。
ハードディスクドライブを保護するため、「Disabled」は設定できません。

● System Auto Off（システム自動停止時間）
時間を設定すると、設定した時間以上システムを使用しない場合に、システムを止めて節電します。
自動停止時間の設定は「10Min.」～「60Min.」から選択します。
設定しない場合は「Disabled」にします。

● LCD Brightness（LCD 輝度）
画面の明るさを選択します。
・Semi-Bright ..... 低輝度に設定する
・Bright ..... 高輝度に設定する
・Super-Bright ..... 最高輝度に設定する

● Cooling Method（CPU 熱制御方式）
CPU の熱を冷ます方式を選択します。
CPU が高熱を帯びると故障の原因になります。
・Maximum Performance ... CPU 温度が上昇したときに、本体内にあるファンを高速回転させて CPU に風を送り、冷やします。
・Performance ..... CPU が高温になったときに、本体内にあるファンが作動し CPU に風を送り、冷やします。
・Battery Optimized ..... CPU が高温になったときに、CPU の処理速度を「Low」にして温度を下げます。「Low」にしても、温度が上がる場合はファンを作動させます。

メモ ● CPU が高熱を帯びると故障の原因になります。高熱状態が続く場合は、自動的にレジューム機能を効かせた状態で電源を切り、パソコンを故障から守ります。

④ PERIPHERAL— HDD や外部装置の設定をする

【Internal Pointing Device】

タッチパッドからの入力を使用するかどうかを設定します。

・Enabled（標準値）..... 使用する
・Disabled ..... 使用しない

【Hard Disk Mode】

ハードディスクのモードを設定します。
項目を変更する場合は、パーティションの再設定を行ってください。

・Enhanced IDE（Normal）（標準値）
.....通常はこちらを選択する
・Standard IDE .....Enhanced IDE に対応していない OS を使用する場合に選択する
この場合、528MB までが使用可能となり、残りの容量は使用できません。

⑤ DISPLAY—表示装置の設定をする

【Power On Display】

表示装置を選択します。

・Auto-Selected（標準値）... システム起動時に外部 CRT ディスプレイを接続しているときは外部 CRT ディスプレイだけに、接続していないときは本体のディスプレイだけに表示する
・Simultaneous ..... 外部 CRT ディスプレイと本体のディスプレイに同時表示する

メモ ● SVGA モードに対応していない外部 CRT ディスプレイを接続して、「Simultaneous」を選択した場合、外部 CRT ディスプレイには画面が表示されません。

【LCD Display Stretch】

内部ディスプレイの表示機能を選択します。

・Enabled（標準値）..... 解像度の小さい表示モードを伸張して表示する

・Disabled ..... 解像度の小さい表示モードは伸張せずにそのまま表示する

⑥ OTHERS—その他の設定をする

【Power-up Mode（レジューム機能）】

レジューム機能を設定します。

・Boot（標準値）..... レジューム機能を無効にする

・Resume ..... レジューム機能を有効にする
「Resume」を選択すると、［OTHERS］の 1 番最後に「Panel Power On/Off」が表示されます。

【CPU Cache（キャッシュ）】

CPU 内のキャッシュメモリを使用するかどうかの設定をします。
使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

・Enabled（標準値）..... キャッシュメモリを使用する

・Disabled ..... キャッシュメモリを使用しない

「Enabled」を選択すると「OPTION」ウィンドウが開きます。

次に「OPTION」ウィンドウの項目について説明します。

● Write Policy

キャッシュメモリへの書き込み方式を設定します。

・Write-back（標準値）..... 書き込み方式を「Write-back」に設定する
キャッシュメモリにデータを書き込み、キャッシュメモリの状態に応じてメインメモリに書き込みます。

・Write-through ..... 書き込み方式を「Write-through」に設定する
キャッシュメモリとメインメモリに、同時にデータを書き込みます。

【Level 2 Cache】

2次キャッシュを使用するかどうかの設定をします。
「CPU Cache」が「Disabled」に設定されている場合は変更できません。

・Enabled（標準値）.....2次キャッシュを使用する
・Disabled 2次キャッシュを使用しない

【Dynamic CPU Frequency Mode】

・Dynamically Switchable（標準値）
.....CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を有効にし、使用状況に応じてCPU周波数を自動的に切り替えます。
・Always High .....CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、常時、高周波数で動作します。
・Always Low .....CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、常時、低消費電力・低周波数で動作します。

【Auto Power On（タイマ・オン機能）】

タイマ・オン機能の設定状態を示します。タイマ・オン機能は1回のみ有効です。起動後は設定が解除されます。

・Disabled（標準値）.....タイマ・オン機能、Wake-up on LAN機能とも設定されていない
・Enabled .....タイマ・オン機能、Wake-up on LAN機能が設定されている

タイマ・オン機能、Wake-up on LAN機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。

次に「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。
アラームの時刻の設定は(Space)または(BackSpace)キーで行います。
時と分、月と日の切り替えは(↑)(↓)キーで行います。

● Alarm Time
自動的に電源を入れる時間を設定します。
・Disabled .....時間を設定しない

● Alarm Date Option
自動的に電源を入れる月日を設定します。
「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。
・Disabled .....月日を設定しない

● Ring Indicator
電話回線からの呼び出し信号により、自動的に電源を入れます。
「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。
また、この機能はPCカードタイプのモデムで使用できます。
・Enabled ..... リングインジケータ機能を使用する
・Disabled ..... リングインジケータ機能を使用しない

● Wake-up on LAN
ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れます。
「Built-in LAN」が「Enabled」の場合に設定できます。
Wake-up on LAN機能を使用する場合は、必ずACアダプタを接続してください。
・Enabled ..... Wake-up on LAN機能を使用する
・Disabled ..... Wake-up on LAN機能を使用しない

【Panel Power On/Off（パネルスイッチ機能）】
ディスプレイの開閉による電源の入／切を設定します。
「Power-up Mode」が「Resume」の場合に表示されます。
・Enabled ..... パネルスイッチ機能を使用する
・Disabled（標準値）..... パネルスイッチ機能を使用しない

⑦ BOOT PRIORITY－ブート優先順位を設定する

【Boot Priority】
システムを起動するディスクドライブの順番を設定します。
通常は「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」に設定してください。
・HDD → FDD → CD-ROM → LAN（標準値）
・FDD → HDD → CD-ROM → LAN
・HDD → CD-ROM → LAN → FDD
・FDD → CD-ROM → LAN → HDD
・CD-ROM → LAN → HDD → FDD
・CD-ROM → LAN → FDD → HDD
（上5つ：指定のドライブ順に起動する）

【Network Boot Protocol】
ネットワークからの起動について設定します。
・PXE（標準値）..... PXEプロトコルに設定する
・RPL ..... RPLプロトコルに設定する

⑧ CONFIGURATION

【Device Config.】

ブート時に BIOS が初期化するデバイスを指定します。

・Setup by OS（標準値）... OS をロードするのに必要なデバイスのみ初期化する
それ以外のデバイスは OS が初期化します。この場合、「PC CARD」内の設定は、「Auto-Selected」固定となり、変更できません。

・All Devices ..... すべてのデバイスを初期化する

プレインストールされている OS を使用する場合は、「Setup by OS」を選択することを推奨します。ただし「PC CARD」内の Controller Mode の設定を「Auto-Selected」以外に設定する場合は「All Devices」に設定してください。

⑨ PCI BUS— PCI バスの割り込みレベルを表示する

【PCI BUS】

PCI バスの割り込みレベルを表示します。変更はできません。

⑩ LEGACY EMULATION— USB 対応機器の設定をする

【USB KB/Mouse Legacy Emulation】

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

・Enabled（標準値）..... レガシーサポートを行う
ドライバなしで USB キーボード／USB マウスが使用できます。

・Disabled ..... レガシーサポートを行わない

【USB-FDD Legacy Emulation】

USB フロッピーディスクドライブのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

・Enabled（標準値）..... レガシーサポートを行う
ドライバなしで USB フロッピーディスクドライブが使用できます。
フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。

・Disabled ..... レガシーサポートを行わない

メモ ● [USB-FDD Legacy Emulation] が [Enabled] に設定されていても、⑦ BOOT PRIORITY の [Boot Priority] が標準値の「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」の場合は、標準ハードディスクから起動します。

⑪ PC CARD— PC カードのモードを選択する

【Controller Mode】

PC カードのモードを選択します。
「Device Config.」が「All Devices」の場合に変更できます。

・Auto-Selected（標準値）... プラグアンドプレイに対応した OS を使用している場合、選択します。

・CardBus/16-bit ..... Auto-Selected で正常に動作しない CardBus または 16-bit 対応の PC カードを使用する場合に選択します。

⑫ DRIVES I/O— HDD の設定

【Built-in HDD】

標準ハードディスクのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

【PC Card】

システムを起動できる PC カードタイプ（TYPE Ⅱ）のハードディスク（別売り）からシステムを起動させた場合のみ、表示されます。
PC カードタイプのハードディスクのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

⑬ PCI LAN

【Built-in LAN】

内蔵 LAN の機能を有効にするかどうかの設定をします。

・Enabled（標準値）..... 有効にする

・Disabled ..... 無効にする

3 パスワードの設定

本製品では、パスワードを設定できます。

- Windows ログオンパスワード
  Windows にログオンするとき
  インスタントセキュリティ状態やパスワード保護の設定をしたスクリーンセーバを解除するとき

参照 インスタントセキュリティ機能
➲「4 章 1-2-(Fn)キーを使った特殊機能キー」

参照 Windows ログオンパスワード ➲『オンラインマニュアル』

- ユーザパスワード、スーパーバイザパスワード
  電源を入れたとき、スタンバイ状態、休止状態から復帰するとき

本節では、ユーザパスワードの設定方法、キーフロッピーディスク*1 の作成方法、スーパーバイザパスワードプログラムについて説明します。

*1 ユーザパスワードを忘れてしまった場合に使用します。

通常はユーザパスワードを登録してください。

参照 ユーザパスワード ➲「本節 1 ユーザパスワード」

スーパーバイザパスワードは、パソコン本体の環境設定を管理する人が使用します。スーパーバイザパスワードを登録すると、スーパーバイザパスワードを知らないユーザは、BIOS セットアップの設定を変更できないようにする、などいくつかの制限を加えることができます。
この制限を加える必要がなければ、ユーザパスワードだけ登録してください。

参照 スーパーバイザパスワード ➲「本節 2 スーパーバイザパスワード」

メモ
- パスワードは、スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うものを使用してください。

パスワードとして使用できる文字

パスワードに使用できる文字は次のとおりです。
パスワードは「＊＊＊＊（アスタリスク：ユーザパスワード、スーパーバイザパスワードの場合）」または「●●●●（Windows ログオンパスワードの場合）」で表示されますので画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

使用できる文字	アルファベット（半角）	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字（半角）	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号（単独のキーで入力できる文字の一部）	− ^ @ [ ] ; : , . / （スペース）
使用できない文字	・全角文字（2バイト文字） ・日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など	

ユーザパスワードはアルファベットの大文字、小文字を区別しませんが、Windows ログオンパスワードでは大文字と小文字は別の文字として認識されます。

次の文字は Windows ログオンパスワードでは使用できますが、ユーザパスワード、スーパーバイザパスワードでは使用できません。

・単独のキーで入力できない（入力するときに Shift キーなどを使用する）文字
【例】｜（バーチカルライン）、&（アンド）、~（チルダ）など

・¥（エン）
↓ ¥_ キーや ろ キーを押すと¥が入力されます。

1 ユーザパスワード

ユーザパスワードの登録 / 削除は、通常「東芝 HW セットアップ」で行ってください。
キーフロッピーディスクを作成したい場合は、「BIOS セットアップ」で登録してください。

パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。

ユーザパスワードの登録

■ 東芝 HW セットアップでの登録

1 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックする

2 [プリンタとその他のハードウェア] をクリックする

3 [東芝 HW セットアップ] をクリックする

4 [パスワード] タブで [ユーザパスワード] の [登録] をチェックする
パスワードが登録されている場合は、削除してからもう 1 度登録してください。

参照 パスワードの削除 ➲「本項 ユーザパスワードの削除」

5 [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

6 [パスワードの確認] 画面の [パスワードの確認] に同じパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

7 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

■ BIOS セットアップでの登録

キーフロッピーディスクを作成する場合は、フォーマット済みの2DD または 2HD（1.44MB）フロッピーディスクと、USB フロッピーディスクドライブ（別売り）が必要です。あらかじめご用意ください。

お願い
- キーフロッピーディスクを作成すると、そのフロッピーディスクに保存されていた内容はすべて消去されます。フロッピーディスクの内容をよくご確認のうえ、ご使用ください。

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Not Registered」に合わせ、Space または BackSpace キーを押す

パスワード入力画面が表示されます。
パスワードが登録されている場合は、「PASSWORD」に「Registered」と表示されます。その場合は、パスワードを削除してから、登録してください。

参照 パスワードの削除方法 ➲「本項 ユーザパスワードの削除」

3 パスワードを入力する

パスワードは 10 文字以内で入力します。入力すると 1 文字ごとに＊が表示されます。

参照 入力できる文字 ➲「本節 パスワードとして使用できる文字」

4 Enter キーを押す

1 回目のパスワードが確認され、パスワードの再入力画面が表示されます。

5 2 回目のパスワードを入力する

パスワードは手順 3 と同じパスワードを入力してください。入力すると 1 文字ごとに＊が表示されます。

6 Enter キーを押す

パスワードが登録されます。2 回目のパスワードが 1 回目のパスワードと異なる場合は、再度パスワードの入力画面が表示されます。手順 3 からやり直してください。

7 パスワードの設定が終了したら、Fn＋→キーを押す

本製品では、Fn＋→がEndキーの機能を持ちます。
次のようなメッセージが表示されます。

```
Are you sure ? (Y/N)
The changes you made will cause the system to reboot.
Insert password service disk if necessary.
```

8 キーフロッピーディスクを作成する場合は、フロッピーディスクをセットしてYキーを押す

作成しないでそのまま終了する場合はフロッピーディスクをセットせずにYキーを押します。
BIOS セットアップの画面に戻るにはNキーを押します。
手順９はキーフロッピーディスクを作成する場合の手順です。

9 キーフロッピーディスクを作成する

参照 キーフロッピーディスクの使いかた
➲「本節 3- ユーザパスワードを忘れてしまった場合」

次のメッセージが表示されます。

```
Password Service Disk Type ? (1:2HD,2:2DD)
```

① セットされているフロッピーディスクが 2HD の場合は1キーを、2DD の場合は2キーを押す

フロッピーディスクへの書き込みを開始します（フロッピーディスクがセットされていない場合は、そのまま終了します）。
フロッピーディスクへの書き込みが終了すると、次のメッセージが表示されます。

```
Remove the password service disk, then press any key.
```

② フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押して終了する

ユーザパスワードの削除

■ 東芝 HW セットアップでの削除

1 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックする

2 [プリンタとその他のハードウェア] をクリックする

3 [東芝 HW セットアップ] をクリックする

4 [パスワード] タブで [ユーザパスワード] の [未登録] をチェックする

5 [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

6 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

メモ
- パスワードの入力エラーが 3 回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。
  この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう 1 度設定を行ってください。

■ BIOS セットアップでの削除

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Registered」に合わせ、Space または BackSpace キーを押す
パスワード入力画面が表示されます。

3 登録してあるパスワードを入力する
入力すると 1 文字ごとに＊が表示されます。

4 Enterキーを押す

パスワードが削除されます。
入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、ビープ音が鳴りエラーメッセージが表示された後、パスワードの入力画面が表示されます。手順３からやり直してください。

メモ
- 入力エラーが３回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、再度設定を行ってください。

2 スーパーバイザパスワード

「スーパーバイザパスワード設定ツール」で、Windows 上からスーパーバイザパスワードの設定や設定の変更ができます。

メモ
- パスワードは、スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うものを使用してください。

■ 起動方法

1 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする

2 「C:¥Program Files¥Toshiba¥Windows Utilities¥SVPWTool¥SVPW32.exe」と入力する

3 [OK] ボタンをクリックする

詳しくは、「README.HTM」をご覧ください。

■「README.HTM」の起動方法

1 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする

2 「C:¥Program Files¥Toshiba¥Windows Utilities¥SVPWTool¥README.HTM」と入力する

3 [OK] ボタンをクリックする

3 パスワードの入力

ユーザパスワードが設定されている場合、電源を入れると、画面に「Password=」と表示されます。
この場合は、次の手順で起動します。

1 設定したとおりにパスワードを入力し、Enterキーを押す
パスワードは大文字、小文字を区別しません。

メモ ● パスワードの入力ミスを３回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

■ ユーザパスワードを忘れてしまった場合

キーフロッピーディスクを使用して、登録したパスワードの解除と再設定ができます。また、再設定したパスワードのキーフロッピーディスクも作成できます。
キーフロッピーディスクを作成していなかったときにパスワードを忘れてしまった場合は、お近くの保守サービスにご相談ください。パスワードの解除を保守サービスにご依頼される場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様ご自身を確認できる物）の提示が必要となります。

1 「Password= 」と表示されたら、キーフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットして、Enterキーを押す
パスワードが解除され、次のメッセージが表示されます。

```
Set Password Again ? (Y/N)
```

2 パスワードを再設定する場合は、Yキーを押す
セットアップ画面が表示されます。「本節 1-BIOS セットアップでの登録」の手順２以降を行ってください。再設定後、システムが再起動します。

パスワードを再設定しない場合は、Nキーを押す
次のメッセージが表示されます。

```
Remove the Disk,then press any key.
```

フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押すと、システムが再起動します。

■ 起動時にユーザパスワードを入力した場合

スタンバイ状態、休止状態を実行して電源を切った場合、再びパソコン本体を起動するには、ユーザパスワードまたはスーパーバイザパスワードを入力してください。

メモ
- スーパーバイザパスワードで、ユーザパスワードからの起動による制限事項を設定している場合、ユーザパスワードで起動すると制限を受けます。

■ 起動時にスーパーバイザパスワードを入力した場合

スタンバイ状態を実行して電源を切った場合、再びパソコン本体を起動するには、スーパーバイザパスワードを入力してください。ユーザパスワードの入力は受け付けません。
休止状態を実行して電源を切った場合、再びパソコン本体を起動するには、ユーザパスワードまたはスーパーバイザパスワードを入力してください。

メモ
- スーパーバイザパスワードで、ユーザパスワードからの起動による制限事項を設定している場合、ユーザパスワードで起動すると制限を受けます。

7章
困ったときは

1 トラブル解消に役立つ操作 162

2 Q&A 集 168

3 再セットアップ 209

1 トラブル解消に役立つ操作

パソコンがうまく操作できないとき、動作がおかしいと感じたときには次の順番で解消へのアプローチをたどってください。

パソコンの状態を確認してください。

- 電源は入りますか?
- 画面は表示されますか?
- タブレットペン、タッチパッド、キーボードは操作できますか?

はい

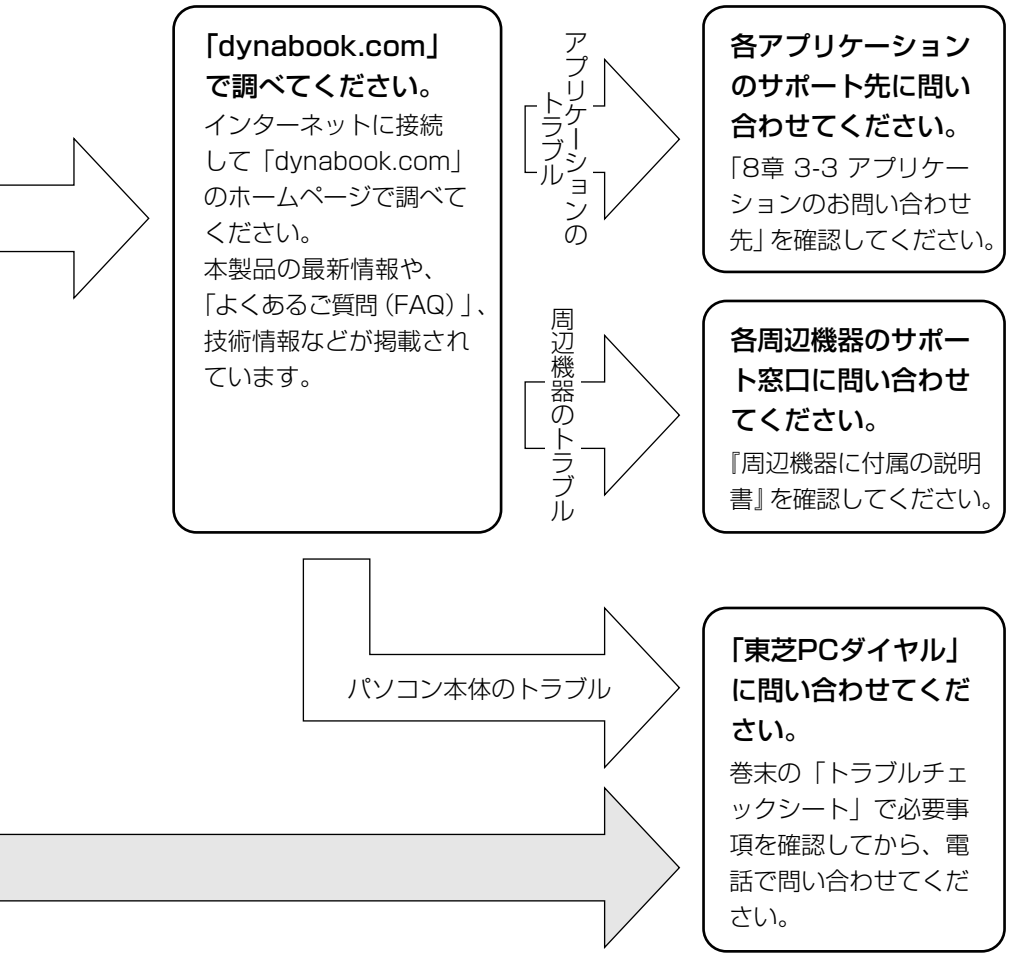
オンラインマニュアルで調べてください。

パソコンの画面上で本製品の使いかたやトラブルの解消方法を見ることができます。
また、語句（キーワード）を入力して検索できます。

いいえ

「本章 2 Q&A集」で調べてください。

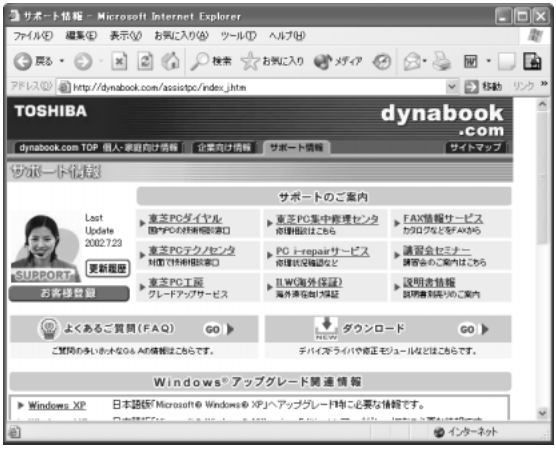
パソコンについてよく問い合わせのあるトラブルの解消方法を、「電源を入れるとき／切るとき」などの操作場面ごとにQ&A形式で説明しています。


「dynabook.com」で調べてください。
インターネットに接続して「dynabook.com」のホームページで調べてください。
本製品の最新情報や、「よくあるご質問（FAQ）」、技術情報などが掲載されています。
アプリケーションのトラブル
各アプリケーションのサポート先に問い合わせてください。
「8章 3-3 アプリケーションのお問い合わせ先」を確認してください。
周辺機器のトラブル
各周辺機器のサポート窓口に問い合わせてください。
『周辺機器に付属の説明書』を確認してください。
パソコン本体のトラブル
「東芝PCダイヤル」に問い合わせてください。
巻末の「トラブルチェックシート」で必要事項を確認してから、電話で問い合わせてください。

サポート情報について

URL http://dynabook.com/assistpc/index_j.htm

「dynabook.com」のトップページ（http://dynabook.com/）からは、［サポート情報］タブをクリックすると表示されます。

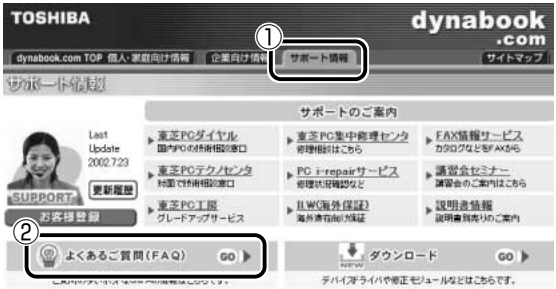


「よくあるご質問（FAQ）」や、デバイスドライバや修正モジュールなどのダウンロード、Windows 関連情報を提供しています。
また、インターネットでのお客様登録を行うことができます。
サポート窓口や修理についても案内しています。

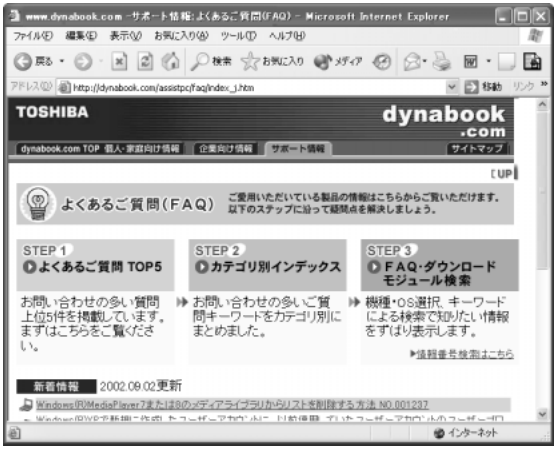
パソコンの操作に困ったら「よくあるご質問（FAQ）」

URL http://dynabook.com/assistpc/faq/index_j.htm

「dynabook.com」のトップページ（http://dynabook.com/）からは、［サポート情報］タブをクリックし①、［よくあるご質問］ボタンをクリックする②と表示されます。



日頃、よく寄せられる質問について、サポートスタッフが、図や解説をまじえて解決方法を掲載しています。
キーワードまたは普通の文章を入力して検索できます。



「dynabook.com」は、最新情報を掲載するため、内容を変更することがあります。

コントロールパネルの開きかた

コントロールパネルは、パソコンの設定変更や確認をするときに開くフォルダです。

1 [スタート]①→[コントロールパネル]②をクリックする

[コントロールパネル] 画面

[コントロールパネル] 画面には２つの表示方法があります。
設定したい内容を分類し、そのカテゴリだけを表示する画面と、すべてのオプション（アイコン）を表示する画面です。
この２つの画面を切り替える方法を説明します。
＊本書では、カテゴリを表示している前提で、操作の説明をしています。

カテゴリだけを表示する画面

各アイコンや下線部をクリックすると、各カテゴリのメニューが表示されます。

下線部をクリックすると切り替わります。

すべてのオプションを表示する画面（クラシック表示）

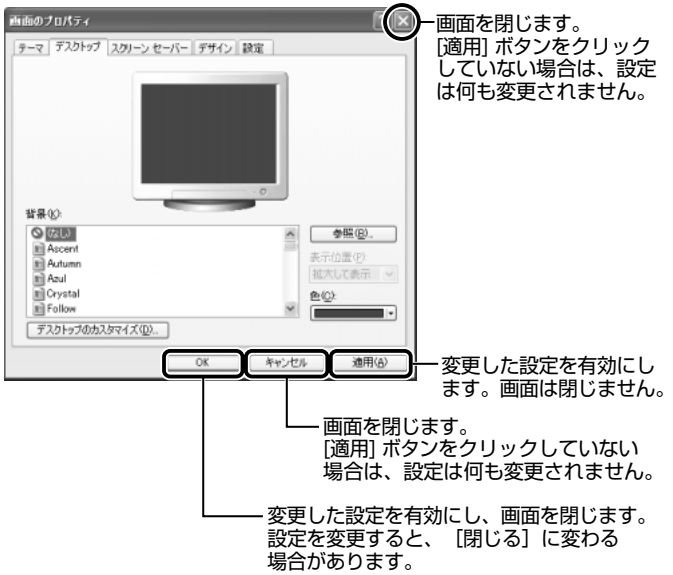
各アイコンをダブルクリックすると、オプション画面が開きます。

コントロールパネルの閉じかた

設定や確認をした後の、オプションの画面と［コントロールパネル］画面の閉じかたを説明します。

1 オプションの画面を閉じる

変更した設定を有効にするかどうかによって、閉じかたが異なります。



オプションから複数の画面を開いていた場合は、1 つ前に表示されていた画面に戻ります。
オプションの画面をすべて閉じると、［コントロールパネル］画面に戻ります。

メモ
- ［適用］ボタンをクリックした後に、［キャンセル］ボタンまたは［閉じる］（ ）ボタンをクリックしても設定を無効にすることはできません。

2 ［コントロールパネル］画面の［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

［コントロールパネル］画面が閉じます。

2 Q&A 集

電源を入れるとき／切るとき

Q 電源スイッチを押しても反応しない 172
Q 1 度電源が入りかけるがすぐに切れる
電源が入らない 172
Q 自動的に電源が入ってしまう 173
Q [終了オプション] から電源が切れない 174
Q 使用中に突然電源が切れてしまった 174
Q しばらく操作しないとき、電源が切れる 174
Q 間違って電源を切ってしまった 175

画面／表示

Q 画面に何も表示されない 176
Q 画面が見にくい 177
Q 画面が暗い 177
Q 画面の色がはっきりしない 178
Q CRT ディスプレイで画面の色がにじんだように表示される ... 178

Windows

Q 内蔵時計が合っていない 179
Q パソコンの処理速度が遅くなった 180

バッテリ駆動で使用するとき

Q Battery LED が点滅した 181
Q 充電したはずのバッテリパックを使用しても
Battery LED がオレンジ色に点滅する 181
Q バッテリ駆動でしばらく操作しないとき、電源が切れる 182

キーボード

Q キーを押しても文字が表示されない 183
Q キーボードから文字を入力しているときに
カーソルがとんでしまう 183
Q 「＼」（バックスラッシュ）が入力できない 183
Q ひらがなや漢字の入力ができない 184
Q キーボードで入力モードを切り替えたい 184
Q キーに印刷された文字と違う文字が入力されてしまう ... 184
Q どのキーを押しても反応しない
設定は合っているが、希望の文字が入力できない 185
Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった 186

タブレットペン／タッチパッド／マウス

Q タブレットペン、タッチパッドやマウスを動かしても
画面のポインタが動かない（反応しない） 187
Q タブレットペンとポインタの動きが合っていない 187
Q タブレットペンでうまく入力できない 187
Q タッチパッドでうまく入力できない 188
Q ［Tablet PC 入力パネル］がうまく使えない 188

サウンド機能

Q スピーカから音が聞こえない 189
Q 甲高い音がする 190
Q サウンド再生時に音飛びが発生する 190

通信機能

Q LAN に接続できない 191
Q 無線 LAN ／ Bluetooth 機能が使えない 192

周辺機器

Q 周辺機器を取り付けたが正しく動かない 193

PC カード

Q PC カードが認識されない 194
Q PC カードの挿入は認識されるが
デバイスとして認識されない 194
Q PC カードは認識されるが使用できない 195

SD メモリカード

Q SD メモリカードが使えない 196
Q SD メモリカードに書き込み（データの保存）ができない 196
Q SD メモリカードの曲を再生できない 196
Q 「READ ERROR」「DATA ERROR」
「CODE ERROR」と表示された 197

コンパクトフラッシュカード

Q コンパクトフラッシュカードが認識されない 198

USB 対応機器

Q USB 対応機器が使えない 199
Q 休止状態から復帰後、USB 対応機器が正常に動作しない ... 199

赤外線通信

Q 赤外線通信ができない 200
Q データが正しく送られない 200
Q 赤外線通信ソフトが使えない 200

アプリケーション

Q アプリケーションが使えない 201
Q アプリケーションが操作できなくなった 202
Q 購入時に入っていたアプリケーションを
誤って削除してしまった 202

メッセージ

Q 「Password=」と表示された 203
Q 「パスワードを忘れてしまいましたか？」「パスワードが誤っています」と表示された 203
Q C:¥>_ と表示された 204
Q 「システムは休止状態からの復帰に失敗しました」と表示された 204
Q 「使用していないアイコンがデスクトップにあります」と表示された 204
Q 次のようなメッセージが表示された 205
Q その他のメッセージが表示された 205

その他

Q セーフモードで起動した 206
Q Disk LED が点滅し、パソコン本体から音がする 206
Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい 207
Q パソコンが応答しない 207
Q コンピュータウイルスに感染した可能性がある 208
Q 異常な臭いや過熱に気づいた！ 208
Q 操作できない原因がどうしてもわからない 208
Q パソコンを廃棄したい 208

電源を入れるとき / 切るとき

電源スイッチを押しても反応しない

A 電源スイッチがロックされている可能性があります。
電源スイッチロックを右側にスライドしてロックを解除してください。

A 電源スイッチを押す時間が短いと電源が入らないことがあります。
Power ⏻ LED が緑色に点灯するまで押し続けてください。

1 度電源が入りかけるがすぐに切れる 電源が入らない

（Battery ▭ LED がオレンジ色に点滅している場合）

A バッテリの充電量が少ない可能性があります。
次のいずれかの対処を行ってください。

- 本製品用の AC アダプタを接続し、通電する
  他製品用の AC アダプタは使用できません。
- 充電済みのバッテリパックを取り付ける

参照 バッテリについて ➲「3 章 1 バッテリについて」

（DC IN ⇥ LED がオレンジ色に点滅している場合）

A 電源の接続の接触が悪い可能性があります。
バッテリパックや AC アダプタを接続し直してください。

参照 バッテリパックの取り付け／取りはずし
➲「3 章 1-3 バッテリパックを交換する」

A パソコン内部温度の上昇が一定以上に達すると、保護機能が働き、システムが自動停止します。
次の対処を行ってください。

- パソコンを涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待つ
- 通風孔のまわりには物を置かない
  通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。

以上の手順でも解決できない場合は、お近くの保守サービスにご連絡ください。

Q 自動的に電源が入ってしまう

A Windows のタスクスケジューラで設定されている可能性があります。
タスクスケジューラで［タスクの実行時にスリープを解除する］に設定されていると、スタンバイ中や休止状態のときは自動的に電源が入り、設定したタスクを実行します。
次の手順で設定を変更できます。

① ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［システムツール］→［タスク］をクリックする
② 設定されているタスクをダブルクリックする
電源が入った時間などを参考に選択してください。
③ ［設定］タブの［電源の管理］で［タスクの実行時にスリープを解除する］のチェックをはずす
④ ［OK］ボタンをクリックする

A ラップトップモードの場合、パネルスイッチ機能が設定されている可能性があります。
次の手順で、パネルスイッチ機能の設定を解除できます。

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする
② ［東芝省電力］をクリックする
③ ［電源設定］タブで利用する省電力モードを選択して、［詳細］ボタンをクリックする
④ ［動作］タブの［コンピュータを閉じたとき］で［何もしない］を選択する
⑤ ［OK］ボタンをクリックする
⑥ ［東芝省電力のプロパティ］画面で［OK］ボタンをクリックする

Q [終了オプション] から電源が切れない

A 次の操作で、電源を切ってください。

① Ctrl + Alt + Del キーを押す、または Windows セキュリティタブレットボタンを押す
[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。

② メニューバーの [シャットダウン] をクリックする
タブレットペン、タッチパッドで操作できない場合は、Alt + U キーを押してください。

③ [コンピュータの電源を切る] をクリックする
タブレットペン、タッチパッドで操作できない場合は、U キーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。

A Ctrl + Alt + Del キーまたは Windows セキュリティタブレットボタンを押しても反応がない場合は、電源スイッチを 5 秒以上押してください。

Q 使用中に突然電源が切れてしまった

A パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。
パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。
また、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりには物を置かないでください。
それでも電源が切れる場合は、お近くの保守サービスにご連絡ください。

Q しばらく操作しないとき、電源が切れる

A Power ⏻ LED が点灯している場合、表示自動停止機能が働いた可能性があります。画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。
次の操作を行ってください。

- Shift キーや Ctrl キーを押す
- タブレットペン、タッチパッドを操作する

A Power ⏻ LED がオレンジ色に点滅しているか、消灯している場合、自動的にスタンバイまたは休止状態になった可能性があります。
電源スイッチを押してください。

また、次の手順で設定を解除できます。

① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
② [東芝省電力] をクリックする
③ [電源設定] タブで利用する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
④ [省電力] タブで [システムスタンバイ] および [システム休止状態] の設定を [なし] にする
⑤ [OK] ボタンをクリックする
⑥ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

参照 スタンバイ、休止状態について ➲「3 章 2 パソコンの使用を中断する」

ご購入時の設定では、AC アダプタを電源に接続して 30 分以上放置した場合、システムはスタンバイを実行します。「東芝省電力ユーティリティ」で設定を変更すると、国際エネルギースタープログラム規格の基準を満たせなくなります。

Q 間違って電源を切ってしまった

A パソコンを終了する場合は、[スタート] → [終了オプション] をクリックします。
パソコンが処理をしている最中（Disk ⛁ LED が点灯中）に電源が切れてしまうと、ハードディスクが故障する場合がありますので、正しい終了手順を守ってください。
正しい終了手順に従わずに強制終了した後、パソコンの動作に少しでも異常が起こった場合は、チェックディスク（ハードディスクの検査）を行ってください。チェックディスクの結果、ハードディスクに異常がなければ、Windows が起動します。異常があった場合は、画面の指示に従って操作を行ってください。

参照 チェックディスクについて ➲『オンラインマニュアル』

画面 / 表示

画面に何も表示されない

（Power ⏻ LED が消灯、またはオレンジ色に点滅している場合）

A 電源が入っていない、またはスタンバイ状態になっています。
電源スイッチを押してください。

（Power ⏻ LED が点灯している場合）

A 表示自動停止機能が働いた可能性があります。
次の操作を行ってください。

- Shiftキーや Ctrlキーを押す
- タブレットペン、タッチパッドを操作する

メモ
- CRT ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10 秒前後かかることがありますが、故障ではありません。

A インスタントセキュリティ機能が働いた可能性があります。
次の操作を行ってください。

パスワードによる保護を設定していない場合：

Shiftキーや Ctrlキーを押す、またはタブレットペン、タッチパッドを操作する

パスワードによる保護を設定（［スクリーンセーバー］タブで、［パスワードによる保護］または［再開時にようこそ画面に戻る］をチェック）している場合：

① Shiftキーや Ctrlキーを押す、またはタブレットペン、タッチパッドを操作する
複数のユーザアカウントを設定している場合は、ユーザ名をクリックしてください。
② パスワード入力画面に Windows ログオンパスワードを入力し、Enterキーを押す

参照 インスタントセキュリティ機能について
➲「4 章 1-2-Fnキーを使った特殊機能キー」

参照 Windows ログオンパスワード ➲『オンラインマニュアル』

A 表示装置が適切に設定されていない可能性があります。
Fn＋F5キーを３秒間押し続けてください。
表示が内部液晶ディスプレイに戻ります。

参照 詳細について ➲「4 章 6 CRT ディスプレイの接続」

Q 画面が見にくい

A ディスプレイを見やすい角度に調整してください。

Q 画面が暗い

A 内部液晶ディスプレイの輝度が低く設定されている可能性があります。
次の手順で設定を変更してください。

●方法 1

- Fn＋F7キーを押す、または Enter/Menu ボタンを 1 秒以上押して東芝 Tablet Menu から内部液晶ディスプレイの輝度を上げる（明るくする）
  Fn＋F6キーを押すと内部液晶ディスプレイの輝度は下がります。

●方法 2

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする
② ［東芝省電力］をクリックする
③ ［電源設定］タブで利用する省電力モードを選択して、［詳細］ボタンをクリックする
④ ［省電力］タブで［モニタの輝度］を設定する
⑤ ［OK］ボタンをクリックする
⑥ ［東芝省電力のプロパティ］画面で［OK］ボタンをクリックする

設定を変更しても明るくならない場合は、ディスプレイに取り付けられているバックライト用蛍光管が消耗している可能性があります。お使いの機種をご確認後、お近くの保守サービスにご連絡ください。有償にて交換いたします。

画面の色がはっきりしない

色数が少ない場合に起こります。
次の手順で設定を変更してください。

①［コントロールパネル］を開き、［デスクトップの表示とテーマ］をクリックする
②［画面］をクリックする
［画面のプロパティ］画面が表示されます。
③［設定］タブで［画面の色］を「最高（32 ビット）」に設定する
④［OK］ボタンをクリックする

メモ ● 解像度によっては「最高」に設定できません。

CRT ディスプレイで画面の色がにじんだように表示される

テレビ、オーディオ機器のスピーカなど強力な磁気を発生する電気製品の近くに設置している場合は、遠ざけてください。

メモ ● 高圧電線の近くの建物の場合は、パソコン本体を置く位置を変えることによって、画像の乱れが直る場合もあります。

Windows

内蔵時計が合っていない

A 次の手順で［日付と時刻］を修正してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［日付、時刻、地域と言語のオプション］をクリックする
② ［日付と時刻を変更する］をクリックする
［日付と時刻のプロパティ］画面が表示されます。
③ ［日付と時刻］タブの［時刻］に表示されている、デジタル時計の数字の部分をクリックする
「時：分：秒」で項目が分かれているので、変更したい部分をクリックしてください。
④ デジタル時計の右端にある上下のボタン（ ）で、時刻の修正を行う
⑤ ［OK］ボタンをクリックする

A 長い間パソコンを使用しないと時計用バッテリの充電が不十分になります。
パソコン本体の電源を入れて時計用バッテリを充電してください。

A 充電してもしばらくすると内蔵時計が合わなくなる場合は、時計用バッテリの充電機能が低下している可能性があります。
お近くの保守サービスにご連絡ください。

パソコンの処理速度が遅くなった

A 「東芝省電力ユーティリティ」の設定で、バッテリ残量に応じてCPUの処理速度が切り替わった可能性があります。また、ご購入時の状態の省電力モードは、ACアダプタを接続しているときは［フルパワー］、バッテリ駆動で使用するときは［ノーマル］に設定されていますので、ACアダプタ接続時に比べてバッテリ駆動時のパソコンの処理速度は遅くなります。

CPUの処理速度は次の手順で変更できます。

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする
② ［東芝省電力］をクリックする
③ 利用したい省電力モードを選択し、［詳細］ボタンをクリックする
④ ［省電力］タブの［CPUの処理速度］で、バッテリ残量に応じた処理速度を設定する
⑤ ［OK］ボタンをクリックする

参照 省電力モードについて ➲「3章 3 省電力の設定をする」

A パソコンのCPUが高温になり、自動的に処理速度が遅くなった可能性があります。
しばらく作業を中止すると、CPUの温度が下がり処理速度が元に戻ります。

A ハードディスクの空き容量が少なくなり、処理速度が遅くなった可能性があります。
不要なファイルなどを削除して、ハードディスクの空き容量を増やしてください。

バッテリ駆動で使用するとき

Q Battery LED が点滅した

A バッテリの充電量が残り少ない状態です。
ただちに次のいずれかの対処を行ってください。

- パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
- 電源を切ってから、フル充電のバッテリパックと取り換える

対処しないと、休止状態が有効に設定されている場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。
休止状態が無効の場合、パソコン本体は何もしないで電源が切れますので、作業中のデータが消失するおそれがあります。休止状態を有効にしておくことをおすすめします。ご購入時は有効に設定されています。
また、データはこまめに保存してください。

参照 バッテリの充電方法 ➲「3 章 1-1 バッテリを充電する」

Q 充電したはずのバッテリパックを使用しても Battery LED がオレンジ色に点滅する

A バッテリパックは使わずにいても充電量が少しずつ減っていきます。
もう 1 度充電してください。
充電しても状態が変わらない場合は、バッテリパックの充電機能が低下している可能性があります。別売りのバッテリパックと交換してください。
それでも状態が変わらない場合は、パソコン本体が故障していると考えられます。お近くの保守サービスにご連絡ください。

参照 バッテリの充電量について ➲「3 章 1-2 バッテリ充電量を確認する」

バッテリ駆動でしばらく操作しないとき、電源が切れる

A 一定時間パソコンを使用しないときに、自動的にスタンバイまたは休止状態にし、システムの動作をオフにするように設定されています。
設定を解除してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする
② ［東芝省電力］をクリックする
③ ［電源設定］タブで利用する省電力モードを選択して、［詳細］ボタンをクリックする
④ ［省電力］タブで［システムスタンバイ］および［システム休止状態］の設定を［なし］にする
⑤ ［OK］ボタンをクリックする
⑥ ［東芝省電力のプロパティ］画面で［OK］ボタンをクリックする

キーボード

キーを押しても文字が表示されない

A システムが処理中の可能性があります。
ポインタが砂時計の形（ ）をしている間は、システムが処理をしている状態のため、タブレットペン、キーボードやタッチパッドなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

キーボードから文字を入力しているときにカーソルがとんでしまう

A 文字を入力しているときに誤ってタッチパッドに触れると、カーソルがとんだり、アクティブウィンドウが切り替わってしまうことがあります。次のいずれかの操作を行ってください。

- 文字を入力している間はタッピング機能が効かないように設定する

① ［コントロールパネル］を開き、［プリンタとその他のハードウェア］をクリックする
② ［マウス］をクリックする
［マウスのプロパティ］画面が表示されます。
③ ［タッピング］タブの［タイピング］で［キー入力時タップしない］をチェックする（ ）
④ ［OK］ボタンをクリックする

- タッチパッドを無効に設定する
Fn＋F9キーを押して、タッチパッドを無効に切り替えてください。

「＼」（バックスラッシュ）が入力できない

A 日本語フォントでは「＼」は入力できません。
\ ろ を押すと￥が表示されますが、「＼」と同じ機能を持ちます。

ひらがなや漢字の入力ができない

日本語入力システムが起動していない状態になっています。
半/全キーを押す、または［Table PC 入力パネル］の漢キーをクリックしてください。

キーボードで入力モードを切り替えたい

次のショートカットキーを利用して入力モードを変更できます。

- Shift＋Caps Lock 英数キー：大文字ロック状態
- Fn＋F10キー：アロー状態
- Fn＋F11キー：数字ロック状態
- Alt＋カタカナひらがなキー：ローマ字入力／かな入力の切り替え

参照 詳細について ➲「4 章 1 キーボード」

キーに印刷された文字と違う文字が入力されてしまう

キーボードドライバの設定が正しくない可能性があります。
次の手順でドライバを再設定してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする
② ［システム］をクリックする
③ ［ハードウェア］タブで［デバイスマネージャ］ボタンをクリックする
④ ［キーボード］をダブルクリックする
⑤ 表示されるキーボードドライバ名をダブルクリックする
キーボードのプロパティ画面が表示されます。
⑥ ［ドライバ］タブで［ドライバの更新］ボタンをクリックする
［ハードウェアの更新ウィザード］画面が表示されます。
⑦ ［一覧または特定の場所からインストールする］を選択し、［次へ］ボタンをクリックする
⑧ ［検索しないで、インストールするドライバを選択する］を選択し、［次へ］ボタンをクリックする
⑨ ［互換性のあるハードウェアを表示］のチェックをはずす
［製造元］と［モデル］の一覧が表示されます。

⑩［製造元］から［(標準キーボード)］、［モデル］から［HID キーボード デバイス］を選択して、［次へ］ボタンをクリックする
［デバイスのインストールの確認］画面が表示されます。
⑪［はい］ボタンをクリックする
ドライバがインストールされ、［ハードウェアの更新ウィザードの完了］画面が表示されます。
⑫［完了］ボタンをクリックする
⑬ キーボードのプロパティ画面で、［閉じる］ボタンをクリックする
［システム設定の変更］画面が表示され、「今コンピュータを再起動しますか？」というメッセージが表示されます。
⑭［はい］ボタンをクリックする
パソコンが再起動します。

どのキーを押しても反応しない 設定は合っているが、希望の文字が入力できない

A 次の手順で［終了オプション］から再起動してください。

①［スタート］→［終了オプション］をクリックする
②［再起動］を選択する

A［終了オプション］から再起動できない場合は、次の操作で再起動してください。この場合、保存していない作成中のデータは消去されます。

① Ctrl＋Alt＋Delキーを押す、または Windows セキュリティ タブレットボタンを押す
［Windows タスクマネージャ］画面が表示されます。
② メニューバーの［シャットダウン］をクリックする
タブレットペン、タッチパッドで操作できない場合は、Alt＋Uキーを押してください。
③［再起動］をクリックする
タブレットペン、タッチパッドで操作できない場合は、Rキーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。

A Ctrl＋Alt＋Delキーまたは Windows セキュリティタブレットボタンを押して再起動できない場合は、電源スイッチを 5 秒以上押してください。電源が切れます。この場合、保存していない作成中のデータは消去されます。
しばらくしてから電源を入れ直してください。

Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった

A 飲み物など液体がこぼれて内部に入ると、感電、本体の故障、作成データの消失などのおそれがあります。液体がパソコン内部に入ったときは、電源を切り、AC アダプタとバッテリパックを取りはずして、ただちにお買い求めの販売店、または保守サービスに点検を依頼してください。

タブレットペン／タッチパッド／マウス

＊マウスは別売りです。

タブレットペン、タッチパッドやマウスを動かしても画面のポインタが動かない（反応しない）

A システムが処理中の可能性があります。
ポインタが砂時計の形（ ）をしている間は、システムが処理中のため、タブレットペン、タッチパッド、キーボードなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

A タッチパッドが無効に設定されている可能性があります。
Fn＋F9キーを押して、タッチパッドを有効に切り替えてください。

タブレットペンとポインタの動きが合っていない

A 次の手順で座標軸を調整してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［プリンタとその他のハードウェア］をクリックする
② ［タブレットとペンの設定］をクリックする
③ ［設定］タブの［調整］で画面の向きを選択する
④ ［調整］ボタンをクリックする
⑤ 調整画面の十字をタブレットペンでクリックし、［OK］ボタンをクリックする

タブレットペンでうまく入力できない

A 次の手順で調節してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［プリンタとその他のハードウェア］をクリックする
② ［タブレットとペンの設定］をクリックする
③ ［ペンのオプション］タブで［ペン操作］から項目を選択し、［設定］ボタンをクリックする
④ 各項目で設定を調節し、［OK］ボタンをクリックする

タッチパッドでうまく入力できない

次の手順で調節してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［プリンタとその他のハードウェア］をクリックする
② ［マウス］をクリックする
③ ［ボタン］タブ、［ポインタオプション］タブ、［方向］タブの各項目で設定を調節し、［OK］ボタンをクリックする

［Tablet PC 入力パネル］がうまく使えない

次の手順で調節してください。

① ［Tablet PC 入力パネル］タイトルバーの［ツール］ボタンをクリックし、表示されたメニューから［オプション］をクリックする
② 各タブで設定を調節し、［OK］ボタンをクリックする

サウンド機能

スピーカから音が聞こえない

A ヘッドホン出力端子からヘッドホンを取りはずしてください。

A パソコン本体のボリュームダイヤルで音量を調節してください。

A スピーカの設定がミュート（消音）になっている可能性があります。
次の手順で変更してください。

●方法 1

- Fn＋Escキーを押す

●方法 2

① ［コントロールパネル］を開き、［サウンド、音声、およびオーディオデバイス］をクリックする
② ［スピーカーの設定を変更する］をクリックする
［サウンドとオーディオデバイスのプロパティ］画面が表示されます。
③ ［音量］タブで［ミュート］にチェック（ ☑ ）がついている場合は、チェックをはずす
④ つまみをドラッグして調整する

A 標準の［優先するデバイス］が変更されている可能性があります。
次の手順で設定を変更してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［サウンド、音声、およびオーディオデバイス］をクリックする
② ［サウンドとオーディオデバイス］をクリックする
［サウンドとオーディオデバイスのプロパティ］画面が表示されます。
③ ［オーディオ］タブで［音の再生］の［既定のデバイス］を［ALi Audio Wave］に設定する
④ ［OK］ボタンをクリックする

A 上記の操作を行っても音量が変わらなければ、標準のサウンドドライバが壊れているか、誤って消去された可能性があります。
サウンドドライバを再インストールしてください。

参照 再インストールについて
➲「8 章 3-2 アプリケーションを再インストールする」

Q 甲高い音がする

A 外部マイクとスピーカでハウリングを起こしている可能性があります。
使用するソフトウェアによっては、この現象が起きることがあります。
次の操作を行ってください。

- ボリュームダイヤルで音量を調節する
- 使用しているソフトウェアの設定を変える
- Windows 上から音量の設定を調整する

Q サウンド再生時に音飛びが発生する

A PC カード接続のハードディスクドライブまたは CD-ROM ドライブの
動作中にサウンドの再生を行うと、音飛びが発生する場合があります。

通信機能

LANに接続できない

A ネットワークの設定が正しくない可能性があります。
次の点を確認してください。

- Windowsのネットワーク設定を確認する
- 相手先のネットワーク機器（HUB）などの設定を確認する
- 有線LANの場合はケーブルの状態を確認する

A LAN機能が無効に設定されている可能性があります。
次の手順で設定を変更してください。

●方法1－「ネットワークデバイススイッチ」で変更する

① ［スタート］→［すべてのプログラム］→［Network Device Switch］→［Network Device Switch］をクリックする
② メイン画面で［タスクバーに常駐する。］をチェックする
③ タスクバーの［Network Device Switch］アイコンをクリックし、表示されたメニューから使用するデバイスをクリックする
有線LAN機能は［Intel(R) PRO/100 M Mobile Connection］と表示されます。
無線LAN機能は［Toshiba Wireless LAN Mini PCI Card］と表示されます。
クリックして、チェックのついたデバイスが有効になります。

●方法２－「デバイスマネージャ」で変更する

① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする

② [システム] をクリックする
[システムのプロパティ] 画面が表示されます。

③ [ハードウェア] タブで [デバイス マネージャ] ボタンをクリックする

④ [ネットワークアダプタ] をダブルクリックする
有線LAN機能は [Intel(R) PRO/100 M Mobile Connection] と表示されます。
無線LAN機能は [Toshiba Wireless LAN Mini PCI Card] と表示されます。
項目の左に×（ ）がついている場合は、無効に設定されています。
次の手順で設定を変更してください。

⑤ 使用したい項目を右クリックし、表示されたメニューから [有効] をクリックする

⑥ [デバイス マネージャ] 画面を閉じる

⑦ [システムのプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

●方法３－「東芝HWセットアップ」で変更する
（有線LAN機能のみ）

① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする

② [東芝HWセットアップ] をクリックする

③ [LAN] タブで [内蔵LAN] の [使用する] をチェックする

④ [OK] ボタンをクリックする

Q 無線LAN／Bluetooth機能が使えない

A ワイヤレスコミュニケーションスイッチがOffの場合はOnにしてください。

A (Fn)+(F8)キーを押す、またはEnter/Menuボタンを1秒以上押して東芝Tablet Menuから使用する無線通信機能を有効に切り替えてください。

A 無線LANの場合は、「ネットワークデバイススイッチ」でデバイスを有効に切り替えてください。
手順は、「Q　LANに接続できない」を確認してください。

周辺機器

周辺機器については『周辺機器に付属の説明書』もあわせてご覧ください。

Q 周辺機器を取り付けたが正しく動かない

A パソコン本体が周辺機器を、「新しいハードウェア」として認識していない可能性があります。
次の手順で［ハードウェアの追加ウィザード］を実行してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［プリンタとその他のハードウェア］をクリックする
② ［関連項目］で［ハードウェアの追加］をクリックする
［ハードウェアの追加ウィザード］が起動します。
③ ［次へ］ボタンをクリックする
画面の指示に従って操作してください。

A 接続ケーブルが正しく接続されていない可能性があります。
接続ケーブルを正しく接続し直してください。

A システム（OS）に対応していない可能性があります。
周辺機器によっては、使用できるシステム（OS）が限られているものがあります。Windows XP に対応しているか確認してください。
詳しくは、『周辺機器に付属の説明書』をご覧ください。

PC カード

PC カードが認識されない

A PC カードが奥までしっかり差し込んであるか確認してください。

PC カードの挿入は認識されるがデバイスとして認識されない

A PC カードによっては、使用できるシステム（OS）が限られているものがあります。詳しくは、『PC カードに付属の説明書』をご覧ください。

A PC カードのコントローラモードが正しく設定されていない可能性があります。BIOS セットアップを起動し、［PC CARD］の［Contraller Mode］で設定を変更してください。

参照 詳細について ➲「6 章 2 BIOS セットアップ」

A 本製品は Windows 専用モデルです。コマンドプロンプト上での PC カードの使用はサポートしておりません。

PC カードは認識されるが使用できない

A IRQ が不足している可能性があります。
次の手順で使用しないデバイスを使用不可にしてください。

① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
② [システム] をクリックする
③ [ハードウェア] タブで [デバイスマネージャ] ボタンをクリックする
④ 使用しないデバイスをダブルクリックする
⑤ 表示される項目から使用しないデバイスを右クリックし、[無効] をクリックする
確認のメッセージが表示されます。
⑥ [はい] ボタンをクリックする
⑦ [デバイスマネージャ] 画面を閉じる
⑧ [システムのプロパティ] 画面で [OK]、または [閉じる] ボタンをクリックする

SD メモリカード

SD メモリカードが使えない

A SD メモリカードが正しくセットされていない可能性があります。
SD メモリカードが正しい向き（ラベル面が上）で奥まで挿入されているか確認してください。

SD メモリカードに書き込み（データの保存）ができない

A SD メモリカードのライトプロテクトタブが「書き込み禁止状態」になっていると、書き込み（データの保存）ができません。
SD メモリカードを取り出して、ライトプロテクトタブを「書き込み可能状態」にしてください。

A SD メモリカードの空き容量が少ないと、書き込み（データの保存）ができません。
次の操作を行ってください。

- 不要なファイルやフォルダを削除して空き容量を増やし、やり直す
  SD メモリカードから削除したファイルを元に戻すことはできません。よく確かめてから削除を行ってください。
- 空き容量が十分にある別の SD メモリカードを使用する

SD メモリカードの曲を再生できない

A SD メモリカードに、再生できる曲が保存されていない可能性があります。よくご確認ください。

A 再生しようとしたデータが、本製品では対応していないファイル形式の可能性があります。よくご確認ください。

「READ ERROR」「DATA ERROR」「CODE ERROR」と表示された

A ファイル読み込みでエラーが検出されました。データが壊れている可能性があります。
そのファイルを削除してください。
このエラーが多発する場合は、そのSDメモリカードをフォーマットしてください。
フォーマットを行うと、そのSDメモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。よく確かめてからフォーマットを行ってください。

コンパクトフラッシュカード

Q コンパクトフラッシュカードが認識されない

A コンパクトフラッシュカードが正しい向き（ラベル面が上）で、奥までしっかり差し込んであるか確認してください。

USB 対応機器

USB 対応機器が使えない

A ケーブルが正しく接続されていない可能性があります。
ケーブルを接続し直してください。

A 何らかの原因で、システム（OS）が正しく USB 対応機器を認識していない可能性があります。Windows を再起動してください。

A ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。
次の手順でドライバをインストールしてください。

① ［コントロールパネル］を開き、［プリンタとその他のハードウェア］をクリックする
② ［関連項目］で［ハードウェアの追加］をクリックする
［ハードウェアの追加ウィザード］が起動します。
③ ［次へ］ボタンをクリックする
画面の指示に従って操作してください。

休止状態から復帰後、USB 対応機器が正常に動作しない

A 休止状態に対応していない USB 対応機器を接続している可能性があります。
USB 対応機器を USB コネクタから取りはずし、もう 1 度接続してください。

赤外線通信

赤外線通信ができない

A 赤外線通信ができる環境になっていない可能性があります。
次の点を確認してください。

- 通信先とパソコン通信速度を同じにする
- 赤外線ポート間の障害物を取り除く
- 赤外線ポートの汚れをおとす
- 赤外線ポートの設定を正しく設定する

データが正しく送られない

A 正しく通信できる環境になっていない可能性があります。
次のことを行ってみてください。

- 通信先とパソコン通信速度を同じにする
- 通信先との距離を近付ける
- 直射日光や蛍光灯の当たる場所からパソコンを離す
- 赤外線を出す装置をパソコン本体から離す

赤外線通信ソフトが使えない

A 赤外線ソフトが正しく設定されていない可能性があります。
次の手順で設定を変更してください。

① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
② [ワイヤレスリンク] をクリックする
③ [赤外線] タブの [ファイルの転送オプション] で [赤外線通信によるファイルの受信を可能にする] をチェックする

アプリケーション

アプリケーションが使えない

A 複数のユーザでパソコンを使用する場合、アプリケーションによっては、コンピュータの管理者アカウント以外では起動できないものがあります。

参照 詳細について ➲「8 章 3-1 複数のユーザで使用する場合」

A 正しくインストールされていない可能性があります。
『アプリケーションに付属の説明書』を読んで、正しくインストールしてください。

A システム（OS）に対応していない可能性があります。
アプリケーションによっては使用できるシステム（OS）が限られているものがあります。
詳しくは、『アプリケーションに付属の説明書』をご覧ください。

A メモリが足りない可能性があります。
アプリケーションを起動するために必要なメモリ容量がない場合は、そのアプリケーションを使用することはできません。必要なメモリ容量は、『アプリケーションに付属の説明書』をご覧ください。

A アプリケーションによっては、システム構成の変更が必要です。
『アプリケーションに付属の説明書』を読んで、システム構成を変更してください。

アプリケーションが操作できなくなった

A アプリケーション使用中に操作できなくなった場合は、次の手順でアプリケーションを強制終了してください。終了後、もう 1 度アプリケーションを起動してください。この場合、アプリケーションで編集していたデータは保存できません。

① Ctrl+Alt+Delキー、または Windows セキュリティタブレットボタンを押す
［Windows タスクマネージャ］画面が表示されます。
② ［アプリケーション］タブで［応答なし］と表示されているアプリケーションのタスクをクリックする
③ ［タスクの終了］ボタンをクリックする
アプリケーションが終了します。

購入時に入っていたアプリケーションを誤って削除してしまった

A 本製品にプレインストールされているアプリケーションやドライバは再インストールできます。

参照 再インストールについて
➲「8 章 3-2 アプリケーションを再インストールする」

メッセージ

「Password=」と表示された

A ユーザパスワードが設定されています。
「東芝 HW セットアップ」または「BIOS セットアップ」で設定したユーザパスワードを入力し、Enterキーを押してください。
タブレットモードの場合はタブレットペンで画面上のキーボードを操作してください。
ユーザパスワードを忘れた場合は、キーフロッピーディスクを使用してください。
キーフロッピーディスクがない場合は、お使いの機種をご確認後、お近くの保守サービスにご連絡ください。有償にてユーザパスワードを解除いたします。その際、身分証明書（お客様ご自身を確認できる物）の提示が必要となります。

参照 ユーザパスワードの入力について ➲「6 章 3 パスワードの設定」

「パスワードを忘れてしまいましたか？」「パスワードが誤っています」と表示された

A 入力を誤っている可能性があるので、いったんパスワードを削除し、もう 1 度入力してください。

A 入力モードの状態により、大文字／小文字を誤って入力した可能性があります。
Shift+Caps Lock 英数キーを押して入力の状態を切り替え、もう 1 度入力してください。

C:¥>_ と表示された

A コマンドプロンプトが全画面表示されています。
次の操作を行ってください。

●方法 1 －コマンドプロンプト画面をウィンドウ表示に切り替える

- (Alt)+(Enter)キーを押す

●方法 2 －コマンドプロンプト画面を終了する

① (E)(X)(I)(T)とキーを押す
② (Enter)キーを押す

「システムは休止状態からの復帰に失敗しました」と表示された

A 休止状態が無効になったというメッセージです。
電源を切る前の状態は再現できません。
「復元データを削除してシステムブートメニューにすすみます」を選択し、(Enter)キーまたはEnter/Menuボタンを押してください。

「使用していないアイコンがデスクトップにあります」と表示された

A このメッセージを表示しているタスクバーアイコンをクリックすると［デスクトップクリーンアップウィザードの開始］画面が表示されますので［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
［デスクトップクリーンアップウィザードの開始］画面で［次へ］ボタンをクリックして操作を続けたとき、デスクトップにある未使用のショートカット（アイコン）が、［使用していないショートカット］フォルダに移動されます。
移動されたショートカットをデスクトップ上に戻す場合は、次のように行ってください。

① ［使用していないショートカット］フォルダをダブルクリックする
② デスクトップ上に戻すショートカットをクリックして選択する
③ ［ファイルとフォルダのタスク］の［このファイルを移動する］または［選択した項目を移動する］をクリックする
④ ［項目の移動］画面で［デスクトップ］をクリックし、［移動］ボタンをクリックする

次のようなメッセージが表示された

- 「Remove disks or other medias. Press any key to restart」
- 「Non- System disk or disk error Replace and press any key when ready」
- 「Invalid system disk Replace the disk,and then press any key」
- 「Boot:Couldn't Find NTLDR Please Insert another disk」
- 「Disk I/O error Replace the disk, and then press any key」
- 「Cannot load DOS press key to retry 」

A 別売りのフロッピーディスクドライブを取り付けている場合は、フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出し、何かキーを押してください。

A 上記の操作を行っても状態が変わらない場合は、巻末の「トラブルチェックシート」で必要事項をご確認のうえ、東芝 PC ダイヤルにご連絡ください。

その他のメッセージが表示された

A ご使用のシステムやアプリケーションの説明書をご覧ください。

その他

セーフモードで起動した

A 周辺機器のドライバやアプリケーションが原因で不具合を起こしている可能性があります。
次の手順でハードディスクをチェックしてください。

① ［マイコンピュータ］を開く
② (C：) ドライブをクリックする
③ メニューバーから［ファイル］→［プロパティ］をクリックする
④ ［ツール］タブの［エラーチェック］で［チェックする］ボタンをクリックする
⑤ ［ディスクのチェック］画面で［不良セクタをスキャンし、回復する］をチェックする
⑥ ［開始］ボタンをクリックする
チェック後パソコンを再起動し、通常起動するか確認してください。

上記の操作を行っても正常に起動しない場合は、東芝 PC ダイヤルへご連絡ください。

参照 セーフモードについて ➲『Windows のヘルプ』

Disk LED が点滅し、パソコン本体から音がする

A ハードディスクが自動保存を行っています。
パソコン操作中は、自動的にデータの保存などの内部作業が行われています。ハードディスクが動作する音が聞こえますが、問題はありません。極端に異常な音が聞こえるなど、おかしいと思われる状態が発生したときは、お買い求めの販売店またはお近くの保守サービスまでご連絡ください。

パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい

次の操作を行ってください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える
- テレビ、ラジオに対するパソコン本体の方向を変える
- パソコン本体をテレビ、ラジオから離す
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う
- コンセントと機器の電源プラグとの間に市販のフィルタを入れる
- 受信機に屋外アンテナを使う
- 平行フィーダを同軸ケーブルに替える

パソコンが応答しない

応答しないアプリケーションを強制終了してください。

参照 対処方法について
➲「本節 アプリケーション -Q. アプリケーションが操作できなくなった」

アプリケーションを終了しても調子がおかしい場合は、以降の操作を行ってください。

Windows を強制終了してください。
システムが操作不能になったとき以外は行わないでください。強制終了を行うと、スタンバイ／休止状態は無効になります。また、保存していないデータは消去されます。

① Ctrl＋Alt＋Delキーを押す、または Windows セキュリティタブレットボタンを押す
［Windows タスクマネージャ］画面が表示されます。
② メニューバーの［シャットダウン］をクリックする
タブレットペン、タッチパッドで操作できない場合は、Alt＋Uキーを押してください。
③［コンピュータの電源を切る］をクリックする
タブレットペン、タッチパッドで操作できない場合は、Uキーを押してください。
④ パソコン本体の電源を入れる

コンピュータウイルスに感染した可能性がある

A ウイルスチェックソフトでウイルスチェックを行い、ウイルスが発見された場合は駆除してください。

異常な臭いや過熱に気づいた！

A パソコン本体、周辺機器の電源を切り、電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。
安全を確認してバッテリパックをパソコン本体から取りはずしてから販売店または保守サービスにご連絡ください。
なお、ご連絡の際には次のことをお知らせください。

- 使用している機器の名称
- ご購入年月日
- 現在の状態（できるだけ詳しくご連絡ください）

操作できない原因がどうしてもわからない

A 巻末の「トラブルチェックシート」で、必要事項をご確認のうえ、東芝 PC ダイヤルにご連絡ください。

A アプリケーションのトラブルの場合は、各アプリケーションのサポート窓口にお問い合わせください。

参照 アプリケーションのお問い合わせ先
➲「8 章 3-3 アプリケーションのお問い合わせ先」

パソコンを廃棄したい

A 本製品を廃棄するときは、地方自治体の条例または規則に従って処理してください。詳しくは、各地方自治体にお問い合わせください。

参照 廃棄について ➲「8 章 2 廃棄・譲渡について」

3 再セットアップ

同梱されているリカバリ CD-ROM を使って、システムやアプリケーションをご購入時の状態にリカバリ（復元）することを再セットアップといいます。
再セットアップには別売りの CD-ROM ドライブなどをご購入ください。

1 再セットアップとは

再セットアップが必要なとき

次のようなときに、再セットアップしてください。

- C ドライブをフォーマットしてしまった
- ハードディスク内のシステムファイルを削除してしまった
- 電源を入れても、システム（Windows）が起動しない　など

再セットアップする前に

「本章 2 Q&A 集」に、いろいろなトラブル解決方法が書かれています。そちらをご覧のうえ、解決できないときに再セットアップしてください。
再セットアップすると、ハードディスク内に保存されていたデータは、すべて消えてしまいます。ご購入後に作成したファイルなど、必要なデータは、あらかじめ外部記憶メディアにバックアップをとって保存してください。
また、インターネットやハードウェアなどの設定は、すべてご購入時の状態に戻ります。再セットアップ後も現在と同じ設定でパソコンを使いたい場合は、現在の設定を控えておいてください。

CD／DVD ドライブについて

再セットアップするときには、別売りのUSB 接続 CD-ROM ドライブ（PACDD002）が必要です。
または、別売りのPC カード接続 CD-R/RWドライブ（IPCS045A、PACDR002）、CD-ROM ドライブ（PA2671UJ、PA2673UJ）もお使いいただけます。
上記以外のドライブをお使いになる場合には「標準システムインストール起動ディスク」が必要です。あらかじめ作成しておくことをおすすめします。

参照 詳細について ➲「本節 3 標準システムインストール起動ディスクを使う」

リカバリ CD-ROM について

リカバリ CD-ROM は、再セットアップのときに使用します。

参照 詳細について ➲「本節 2 再セットアップする」

アプリケーション CD-ROM について

アプリケーション CD-ROM には、本製品にプレインストールまたは添付されているアプリケーションが入っています。
アプリケーションなどの一覧および概要、注意事項とインストール方法については、アプリケーション CD-ROM をセットし、表示される画面をご覧ください。

参照 使用方法 ➲「8 章 3-2 アプリケーションを再インストールする」

リカバリ CD-ROM ／アプリケーション CD-ROM は絶対になくさないようにしてください。紛失した場合、再発行することはできません。

2 再セットアップする

本製品にプレインストールされている Windows やアプリケーションをすべて復元し、ご購入時の状態に戻します。

■ 必要なもの

- リカバリ CD-ROM
- 取扱説明書（本書）
- USB 接続 CD-ROM ドライブ（PACDD002：別売り）
  または、PC カード接続 CD-R/RW ドライブ（IPCS045A、PACDR002：別売り）、CD-ROM ドライブ（PA2671UJ、PA2673UJ：別売り）もお使いいただけます。

上記以外のドライブをお使いになる場合には「標準システムインストール起動ディスク」が必要です。

参照 詳細について ➲「本節 3 標準システムインストール起動ディスクを使う」

アプリケーションモデルの場合は、次のものもご用意ください。

- Microsoft® Office XP Personal CD-ROM
- Microsoft® Office XP ツール CD-ROM
- アプリケーション CD-ROM

■ 準 備

- 必要なデータを保存する
  システムを復元すると、ハードディスクの内容はすべて削除されます。必要なデータは、あらかじめバックアップをとって保存してください。
  C ドライブをフォーマットした場合やシステムファイルを削除した場合はデータのバックアップはできません。
- パソコンを購入時の状態に戻す
  増設した外付けハードディスクドライブやメモリなど、ご購入後に追加した周辺機器を取りはずしてください。

操作手順

1 パソコンの電源を切る

2 AC アダプタと電源コードを接続する

3 パソコンに CD ／ DVD ドライブを接続する

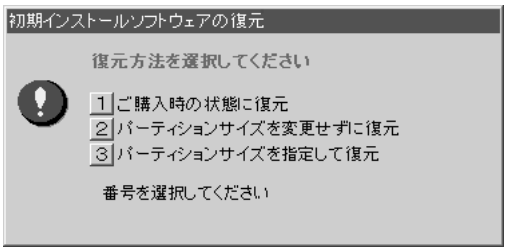
参照 使用できるドライブ ➲「本節 1-CD ／ DVD ドライブについて」

4 「リカバリ CD-ROM Disk1」をセットする

5 キーボードの(F12)キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

6 (→)または(←)キーで CD のアイコンにカーソルを合わせ、(Enter)キーを押す
［初期インストールソフトウェアの復元］画面が表示されます。

7 購入時の状態に復元する場合は(1)キーを、現在のパーティション設定をそのまま使用する場合は(2)キーを、パーティション設定を指定する場合は(3)キーを押す



- (1)キーを押した場合
「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。
手順８に進んでください。
- (2)キーを押した場合
「先頭パーティションのデータは、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。
手順８に進んでください。

● ③キーを押した場合
「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。
① Yキーを押す
［パーティションサイズの指定］画面が表示されます。
② ←または→キーを使ってパーティションのサイズを指定する
ここではハードディスクに対するCドライブのサイズを設定します。ディスク容量が残った場合は管理ツールで設定してください。

参照 設定方法について ➲「本節 4 パーティションを設定する」

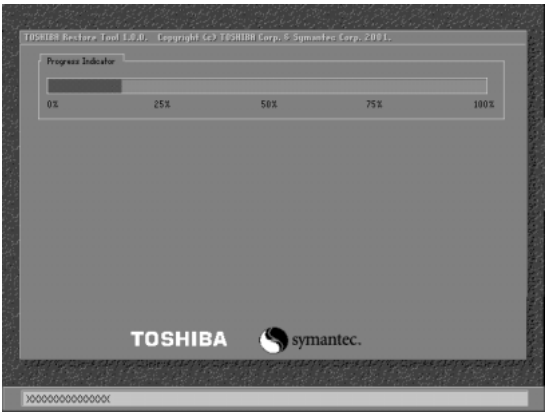
③ Enterキーを押す
「復元を開始します！」というメッセージが表示されます。
手順９に進んでください。

8 Yキーを押す

「復元を開始します！」というメッセージが表示されます。
処理を中止する場合は、Nキーを押してください。

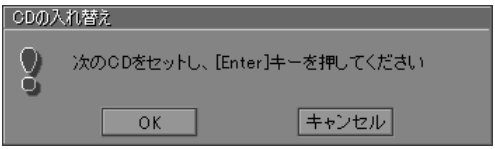
9 Yキーを押す

処理を中止する場合は、Nキーを押してください。
復元中は、次の画面が表示されます。
復元の進行状況を示すグラフ表示が100%まで伸びた後、もう1度0%から始まります。
グラフが２度目に100%に達すると完了です。

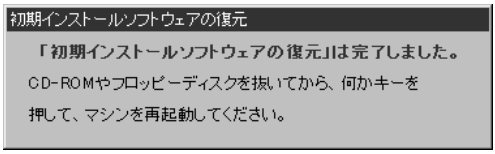


10 表示されるメッセージに従って復元を行う

復元中に次のメッセージが表示された場合、CD を入れ替え、Enterキーを押してください。処理が続きます。



画面には、現在何枚目の CD の復元が終了し、次に何枚目の CD をセットする必要があるかなどは、表示されません。
CD が何枚目であるかはラベルに書いてありますので、CD を取り出す際に番号を覚えておくようにしてください。
復元が完了すると、次の画面が表示されます。



11 CD を取り出し、パソコンから CD ／ DVD ドライブを取りはずしてから、何かキーを押す

システムが再起動します。

12 Windows のセットアップを行う

参照 Windows のセットアップ ➲「1 章 3 Windows のセットアップ」

アプリケーションモデルの場合、「Microsoft® Office XP Personal」は、以上の手順では復元されません。
Windows セットアップが終了した後に、アプリケーションのパッケージに同梱されている説明書を確認して、復元してください。
その後、アプリケーション CD-ROM から「Microsoft® Office XP Pack for Tablet PC」をインストールしてください。
「LaLaVoice」の「読み上げ」および「声で入力」の組み込み方法は、『LaLaVoice ヘルプ』の「マクロのインストール／アンインストール」を確認してください。

3 標準システムインストール起動ディスクを使う

本製品でサポートしている CD ／ DVD ドライブ（別売り）を使用する場合、リカバリ CD-ROM から起動して再セットアップすることができます。

参照 サポートしているドライブ ➲「本節 1-CD ／ DVD ドライブについて」

参照 標準システムの復元について ➲「本節 2 再セットアップする」

上記以外の CD ／ DVD ドライブを使用する場合、次の手順に従って「標準システムインストール起動ディスク」を作成すると、再セットアップができます。

■ 必要なもの

- リカバリ CD-ROM
- 取扱説明書（本書）
- USB 接続フロッピーディスクドライブ（別売り）
- お手持ちの CD ／ DVD ドライブ

アプリケーションモデルの場合は、次のものもご用意ください。

- Microsoft® Office XP Personal CD-ROM
- Microsoft® Office XP ツール CD-ROM
- アプリケーション CD-ROM

■ 準 備

- 必要なデータを保存する
  システムを復元すると、ハードディスクの内容はすべて削除されます。必要なデータは、あらかじめバックアップをとって保存してください。
- パソコンを購入時の状態に戻す
  増設したハードディスクドライブやメモリなど、ご購入後に追加した周辺機器を取りはずしてください。

作成方法

1. フォーマット済みのフロッピーディスクを1枚用意し、ラベル（「標準システムインストール起動ディスク」）を付ける
2. パソコンにフロッピーディスクドライブを接続し、フロッピーディスクをセットする
3. ［スタート］→［すべてのプログラム］→［東芝ユーティリティ］→［標準システムインストール起動ディスクの作成］をクリックする
4. 何かキーを押す
5. 使用するCD／DVDドライブのメーカの番号を入力して Enter キーを押す
   メニュー一覧にお持ちのドライブが表示されない場合は、［手動インストール］を選択してください。
6. 画面の指示に従って操作する
   ディスクの作成が完了すると、「リカバリディスクが作成されました」と表示されます。
7. 何かキーを押してプログラムを終了する

使用方法

お願い

- USB接続フロッピーディスクドライブをお使いの場合は、「東芝HWセットアップ」の［USB］タブで、［USBフロッピーディスク レガシーサポート］を［有効にする］に設定してください。「東芝HWセットアップ」を起動できない場合は、BIOSセットアップを起動し、［LEGACY EMULATION］の［USB-FDD Legacy Emulation］を［Enabled］に設定してください。

1 Windows を終了してパソコンの電源を切る

2 AC アダプタと電源コードを接続する

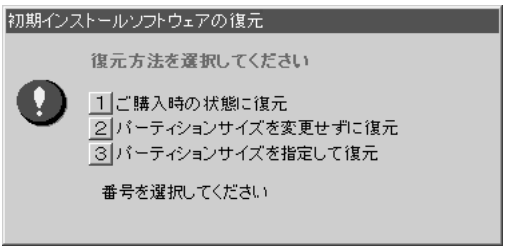
3 フロッピーディスクドライブを接続し、「標準システムインストール起動ディスク」をセットする

4 CD ／ DVD ドライブを接続し、「リカバリ CD-ROM Disk1」をセットする

5 キーボードの(F12)キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

6 (→)または(←)キーでフロッピーディスクのアイコンにカーソルを合わせ、(Enter)キーを押す
［初期インストールソフトウェアの復元］画面が表示されます。

7 購入時の状態に復元する場合は(1)キーを、現在のパーティション設定をそのまま使用する場合は(2)キーを、パーティション設定を指定する場合は(3)キーを押す



- (1)キーを押した場合
「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。
手順８に進んでください。
- (2)キーを押した場合
「先頭パーティションのデータは、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。
手順８に進んでください。

● ③キーを押した場合
「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。
① Ⓨキーを押す
［パーティションサイズの指定］画面が表示されます。
② ←または→キーを使ってパーティションのサイズを指定する
ここではハードディスクに対するCドライブのサイズを設定します。ディスク容量が残った場合は管理ツールで設定してください。

参照 設定方法について ➲「本節 4 パーティションを設定する」

③ Enterキーを押す
「復元を開始します！」というメッセージが表示されます。
手順９に進んでください。

8 Ⓨキーを押す

「復元を開始します！」というメッセージが表示されます。
処理を中止する場合は、Ⓝキーを押してください。

9 Ⓨキーを押す

処理を中止する場合は、Ⓝキーを押してください。
CD／DVDドライブを自動認識し、システムのインストールが始まります。

10 表示されるメッセージに従って、システムのインストールを行う

アプリケーションモデルの場合、「Microsoft® Office XP Personal」は、以上の手順では復元されません。
Windowsセットアップが終了した後に、アプリケーションのパッケージに同梱されている説明書を確認して、復元してください。
その後、アプリケーションCD-ROMから「Microsoft® Office XP Pack for Tablet PC」をインストールしてください。
「LaLaVoice」の「読み上げ」および「声で入力」の組み込み方法は、『LaLaVoiceヘルプ』の「マクロのインストール／アンインストール」を確認してください。

4 パーティションを設定する

パーティションの設定を変更して再セットアップした場合は、再セットアップ後に残りのパーティションの設定を行ってください。

1. コンピュータの管理者になっているユーザアカウントでログオンする
2. [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
3. [管理ツール] をクリックする
4. [コンピュータの管理] をダブルクリックする
5. [ディスクの管理] をクリックする
   設定していないパーティションは [未割り当て] と表示されます。
6. [ディスク 0] の [未割り当て] の領域を右クリックする
7. 表示されるメニューから [新しいパーティション] をクリックする
   [新しいパーティションウィザード] が起動します。
8. [次へ] ボタンをクリックし、ウィザードに従って設定する
   次の項目を設定します。
   ・パーティションの種類
   ・パーティションサイズ
   ・ドライブ文字またはパスの割り当て
   ・フォーマット
   ・ファイルシステム
9. 設定内容を確認し、[完了] ボタンをクリックする
   フォーマットが開始されます。
   パーティションの状態が [正常] と表示されれば完了です。
   詳細については「コンピュータの管理」のヘルプを参照してください。

■ ヘルプの起動

1. メニューバーから [ヘルプ] → [トピックの検索] をクリックする

8章
こんなときは

1 アフターケアについて 222
2 廃棄・譲渡について 223
3 アプリケーションについて 226

1 アフターケアについて

保守サービスについて

保守サービスへのご相談は、『東芝 PC サポートのご案内』をご覧ください。

消耗品について

次の部品は消耗品です。

- タブレットペン
  タブレットペンを破損した場合、または替え芯を使い切った場合は別売りの DynaBook 用タブレットペン（PASTY002）をご購入ください。
- バッテリパック（充電式リチウムイオン電池）
  長時間の使用により消耗し、充電機能が低下します。
  充電機能が低下した場合は、別売りのバッテリパック（PABAS027）と交換してください。
- 時計用バッテリ（交換は有償です）
  消耗した場合は、お使いの機種をご確認後、お買い求めの販売店、または保守サービスにご連絡ください。

保守部品（補修用性能部品）の最低保有期間

保守部品（補修用性能部品）とは、本製品の機能を維持するために必要な部品です。
本製品の保守部品の最低保有期間は、製品発表月から６年６ヶ月です。

2 廃棄・譲渡について

バッテリパックについて

不要になったバッテリパックは、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。
その場合、ショート防止のため電極にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってください。

Li-ion

■ バッテリパック（充電式電池）の回収、リサイクルおよびリサイクル協力店に関するお問い合わせ先

社団法人 電池工業会
TEL ／ 03-3434-0261
ホームページ／ http://www.baj.or.jp

パソコン本体について

本製品を廃棄するときは、地方自治体の条例または規則に従って処理してください。詳しくは、各地方自治体にお問い合わせください。
（本製品は、プリント基板の製造に使用するはんだには鉛が、LCD表示部に使用している蛍光灯には水銀が含まれています。）

■ 企業でパソコンをご使用のお客様へ

本製品を廃棄するときは、産業廃棄物として扱われます。
東芝は、廃棄品の回収と適切な再使用・再利用処理を有償で実施しています。
使用済みになった東芝製品については、東芝の回収・処理システムをご利用いただきますようお願いいたします。

【お問い合わせ先】

東芝パソコンリサイクルセンター
TEL　：045-510-0255
受付時間：9:00 ～ 17:00（土・日・祝日・当社指定の休日を除く）
FAX　：045-506-7983（受付時間：24 時間）

■ パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきております。これらのパソコンの中のハードディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。
したがって、そのパソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。
ところが、このハードディスク上に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。
「データを消去する」という場合、一般に

- データを「ごみ箱」に捨てる
- 「削除」操作を行う
- 「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ソフトで初期化（フォーマット）する
- 付属のリカバリ CD-ROM を使い、ご購入時の状態に戻す

などの作業をすると思いますが、これらのことをしても、ハードディスク上に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータは見えなくなっているという状態なのです。
つまり、一見消去されたように見えますが、Windows などの OS のもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。
したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、パソコンのハードディスク上の重要なデータ が読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。
パソコンユーザが、廃棄・譲渡などを行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、ユーザの責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有償）を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊して、読めなくすることを推奨します。
なお、ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、十分な確認を行う必要があります。

データ消去については、次のホームページも参照してください。
URL　http://dynabook.com/pc/eco/haiki.htm

■ お客様登録（ユーザ登録）の削除について

お客様登録されている製品を廃棄される場合は、「パソコンお客様ご登録係」までご連絡のうえ、登録の削除の手続きをお願いいたします。

パソコンお客様ご登録係
TEL／043-278-5997
受付時間／9:00～17:00（土・日、祝日、特別休日を除く）

3 アプリケーションについて

1 複数のユーザで使用する場合

Windows XP を複数のユーザで使用する場合、システム全体を変更できるユーザ（コンピュータの管理者）と、できる操作に制限のあるユーザ（制限付きアカウント）をあらかじめ設定しますが、プレインストールされているアプリケーションの中には、ログオンするユーザによって使用に制限がある場合があります。

参照 複数のユーザで使用する ➲『オンラインマニュアル』

アプリケーション	使用できるユーザ		複数のユーザで同時に使用できる	制限付きアカウントでのアイコン表示
	すべてのユーザ	コンピュータの管理者のみ		
LaLaVoice	○*1		○	○
Symbol Commander	○		○	○
内蔵モデム用 地域選択ユーティリティ		○		○*2
ネットワークデバイス スイッチ		○		○*2
Bluetooth 東芝ユーティリティ		○		○*2
PC診断ツール		○		○*2
東芝HWセットアップ	○			—*3
東芝省電力ユーティリティ		○	○	—*3
Fn-esse	○		○	○
DIONかんたん設定ツール		○	○	○*2
@niftyでインターネット		○		○*2

＊1 制限付きアカウントでのご使用は動作保証外となります。
＊2 コンピュータ管理者（インストールしたユーザ）以外も、デスクトップまたはスタートメニューにアイコンがありますが、使用できるユーザはコンピュータ管理者のみです。
＊3 コントロールパネルにはアイコンが表示されます。

2 アプリケーションを再インストールする

本製品にプレインストールされているアプリケーションやドライバを 1 度削除してしまっても、必要なアプリケーションやドライバを指定して再インストールすることができます。

1 パソコンに CD ／ DVD ドライブを接続する

2 アプリケーション CD-ROM をセットし、表示される画面に従って操作する

［ファイルのダウンロード］画面が表示されたら、［開く］ボタンをクリックしてください。

メモ

- すでにインストールされているアプリケーションを再インストールするときは、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」または各アプリケーションのアンインストールプログラムを実行して、アンインストールを行ってください。
  アンインストールを行わずに再インストールを実行すると、正常にインストールできない場合があります。ただし、上記のどちらの方法でもアンインストールが実行できないアプリケーションは、上書きでインストールしても問題ありません。

3 アプリケーションのお問い合わせ先

＊ 2002 年 11 月現在の内容です。

本製品にプレインストールされているアプリケーションのお問い合わせ先は、次のとおりです。
各アプリケーションのユーザ登録については、それぞれのお問い合わせ先までお問い合わせください。

Acrobat Reader／Fn-esse／Internet Explorer／Outlook Express／ Windows Media Player／Symbol Commander／LaLaVoice／ PC診断ツール／東芝省電力ユーティリティ／東芝HWセットアップ／ Bluetooth東芝ユーティリティ／ネットワークデバイススイッチ／ 内蔵モデム用地域選択ユーティリティ
東芝（東芝PCダイヤル） お問い合わせの際には「お客様登録番号」をお伺いしております。あらかじめ「お客様登録（ユーザ登録）」を行っていただきますようお願い申し上げます。 ナビダイヤル（全国共通電話番号） ＴＥＬ　　：0570-00-3100（サポート料無料） 受付時間　　：9:00～19:00（祝日、12/31～1/3を除く） 電話番号はお間違えのないようお確かめの上、おかけいただきますようお願いいたします。 お客様からの電話は全国6箇所（千葉市、大阪市、名古屋市、福岡市、仙台市、札幌市）の最寄りの拠点に自動的に接続されます。拠点までの電話料金は有料となります。また、海外からの電話、携帯電話などで上記電話番号に接続できないお客様、NTT以外とマイラインプラスなどの回線契約をご利用のお客様は、043-298-8780でお受けしています。 ・ナビダイヤルでは、ダイヤル後に通話区間料金のアナウンスが流れます。これはお客様から全国6箇所の最寄りの拠点までの通常電話料金で、サポート料金ではありません。 ・ナビダイヤルでは、NTT以外とマイラインプラスをご契約の場合でも、自動的にNTT回線を使用することになりますので、あらかじめご了承ください。

フレッツADSL

●登録に関するお問い合わせ

東芝ヘルプデスクセンター

ＴＥＬ　：043-278-7522
受付時間　：9:00～17:00
（土・日・祝祭日・年末年始および弊社特別休日を除く）

いきなりインターネット

東芝情報システム株式会社infoPepperインターネットサービスサポート窓口

TEL　：044-201-0450
受付時間　：10:00～12:00、13:00～17:00
（土・日・祝祭日、当社休業日を除く）
FAX　：044-246-1131
FAX・音声
情報サービス　：044-201-0449（24時間受付）
E-mail　：support@staff.pep.ne.jp
ホームページ　：http://www.pep.ne.jp/

@nifty

@nifty入会センター

ＴＥＬ　：0120-816-042
（携帯電話／PHS／海外の場合）03-5753-2374
（電話料金はお客様ご負担となります。）

受付時間　：毎日 9:00～21:00
※ビルの電源工事などによりお休みさせていただく場合があります。

E-mail　：https://www.nifty.com/support/madoguchi/form_join.htm

ホームページ：http://www.nifty.com/support/madoguchi/

DION

KDDIカスタマサービスセンター

受付時間　：9:00～21:00（土・日・祝日も受付中）

●サービス内容に関するお問合わせ

ＴＥＬ　：0077-7192（無料）

E-mail　：ADSLに関して　bbsupport@dion.ne.jp
その他のサービスに関して　support@dion.ne.jp

●接続・設定に関するお問合わせ

ＴＥＬ　：0077-7084（無料）ADSLコースについては24時間受付中！
※夜間はお問合せ内容によって、翌日にご回答させていただく場合があります。

E-mail　：ADSLに関して　bbtech@dion.ne.jp
その他のサービスに関して　tech_support@dion.ne.jp

Microsoft Bookshelf Basic／Microsoft Excel／Microsoft Outlook／
Microsoft Outlook Plus!／Microsoft Word／
Microsoft Office XP Pack for Tablet PC

マイクロソフト株式会社 お問い合わせ各種窓口

無償サポート専用回線

●セットアップ、インストールに関するお問い合わせ

ＴＥＬ　：東京：03-5354-4500
　　大阪：06-6347-4400
受付時間　：9:30～12:00、13:00～19:00（平日）
　　10:00～17:00（土曜日、日曜日）
　　（マイクロソフト株式会社休業日、年末年始、祝祭日を除く）
期間、回数　：指定はございません。

●基本操作に関するお問い合わせ

ＴＥＬ　：東京：03-5354-4500
　　大阪：06-6347-4400
受付時間　：9:30～12:00、13:00～19:00（平日）
　　10:00～17:00（土曜日）
　　（マイクロソフト株式会社休業日、年末年始、祝祭日を除く）
期間　：指定はございません。
回数　：4件のご質問

●早急に回答が必要な場合

サポートオンライン　http://www.microsoft.com/japan/support/
サポートオンラインではよく寄せられる質問の回答集を検索することができます。

●情報交換しながら問題解決する

ニュースグループ
　http://www.microsoft.com/japan/support/oj_newsg.htm
ニュースグループではマイクロソフト製品に関して他の方や技術的な知識を持った方とコミュニケーションすることができます。製品情報やヒント、テクニックの交換の場としてご活用ください。

※ニュースグループに参加する際は、上記URL内にある「サービスの範囲とルール」を必ずご覧ください。ニュースを閲覧／投稿する際には、Outlook Expressなどのニュースリーダーが必要です。

非技術的なお問い合わせ窓口
（マニュアルの乱丁・落丁、ディスク不良、欠品及びオフィシャル ユーザー登録/変更などやご購入前の製品/これから発売される製品に関するお問い合わせ）

マイクロソフトカスタマーインフォメーションセンター

ＴＥＬ　：03-5454-2300（技術サポート以外）
受付時間　：9:30～12:00、13:00～17:30
　　（土曜日、日曜日、マイクロソフト株式会社休業日、年末年始、祝祭日を除く）

※ご購入前の製品やこれから発売される製品に関するお問い合わせは、お電話でのみ受け付けています。
上記以外に聴覚・言語に障害があるかたのための窓口もご用意させていただいております。

付録

1 製品仕様 234
2 各インタフェースの仕様 246
3 技術基準適合について 249

1 製品仕様

1 基本仕様

機　種		DynaBook SS 3500
プロセッサ	CPU	「PC診断ツール」を参照*1
メモリ	ROM	512KB（フラッシュROM）、 ACPI 1.0b、APM 1.2、Plug and Play 1.0a
	RAM	「PC診断ツール」を参照*1 *2
	ビデオRAM	16MB（システムメモリと共用）
表示機能	表示装置	12.1型低温ポリシリコンTFTカラー液晶ディスプレイ
	グラフィック表示	横1024 x 縦768ドット　1画面
入力装置	キーボード	OADG109Aキータイプ準拠 85キー（文字キー、制御キーの合計）
	ポインティングデバイス	タッチパッド内蔵 DynaBook用タブレットペン（標準添付）
補助記憶装置	ハードディスクドライブ*3	2.5型 1台装備
インタフェース	RGB	1個装備
	USB	2個装備　USB2.0準拠*4
	PCカード	1個装備　PC Card Standard準拠（TYPEⅡ） CardBus対応
	SDメモリカード	1個装備
	コンパクトフラッシュカード	1個装備　CFA準拠（TYPEⅠ／Ⅱ）
	サウンド	マイク入力 　1個装備（Φ3.5mmモノラルミニジャック） ヘッドホン出力 　1個装備（Φ3.5mmステレオミニジャック） 内蔵スピーカ（モノラル）装備 内蔵マイク装備
通信機能	LAN	1個装備　100Base-TX／10Base-T
	モデム	1個装備（ITU-T V.90準拠）
	無線LAN	1個装備　IEEE802.11b準拠 11Mbpsまで対応
	Bluetooth	1個装備 Bluetooth Specification Ver1.1準拠
	赤外線通信	1ポート装備　IrDA 1.1準拠
カレンダ機能		日付、時計機能を標準装備 充電型電池によるバックアップ

機　種		DynaBook SS 3500
電源	ACアダプタ	AC100～240V（50Hz、または60Hz）
	バッテリパック（標準装備）	Li-ion 10.8V　3600mAh
最大消費電力		約45W
使用環境条件		温度：5℃～35℃　湿度：20%～80%Rh
外形寸法（突起部除く）		295(幅) x 234(奥行) x 31～36(高さ) mm
質量		約1.9kg

*1： 基本仕様の一部は、「PC 診断ツール」の［基本情報の表示］ボタンをクリックして確認できます。ただし、「PC 診断ツール」で表示される内容は、その時点での設定内容です。お客様が設定を変更された場合は、変更後の設定内容が表示されます。また［CPU］の項目には、搭載されている CPU の最大クロック数（固定値）が表示され、これはユーティリティなどによる設定値には影響されません。

*2： メインメモリ領域のうち 16MB がビデオ RAM として使用されるため、［PC 診断ツール］の［基本情報の表示］で使用されるメモリの容量は、実際の搭載メモリより約 16MB 少なく表示されます。

*3： ハードディスク容量は、ハードディスクドライブのプロパティで確認できます。プロパティを表示するには、［マイコンピュータ］からハードディスクドライブのアイコンを右クリックし、表示されるメニューから［プロパティ］をクリックします。

*4： USB1.1 ／ 2.0 対応
ただし、すべての USB 対応機器の動作を保証するものではありません。

■ 電源コード

本製品に同梱されている電源コードは、アメリカ合衆国、カナダ、日本の規格に準拠しています。
その他の地域で使用する場合は、別途電源コードを購入してください。
使用できる電圧（AC）は次のとおりです。

アメリカ合衆国、カナダ	125V
日本	100V

日本では必ず AC100V のコンセントで使用してください。

※取得規格は、アメリカ合衆国：UL 規格、カナダ：CSA、日本：電気用品安全法です。

■ AC アダプタ

入力	AC100～240V、1.1A-0.6A、50/60Hz
出力	DC15V 3A

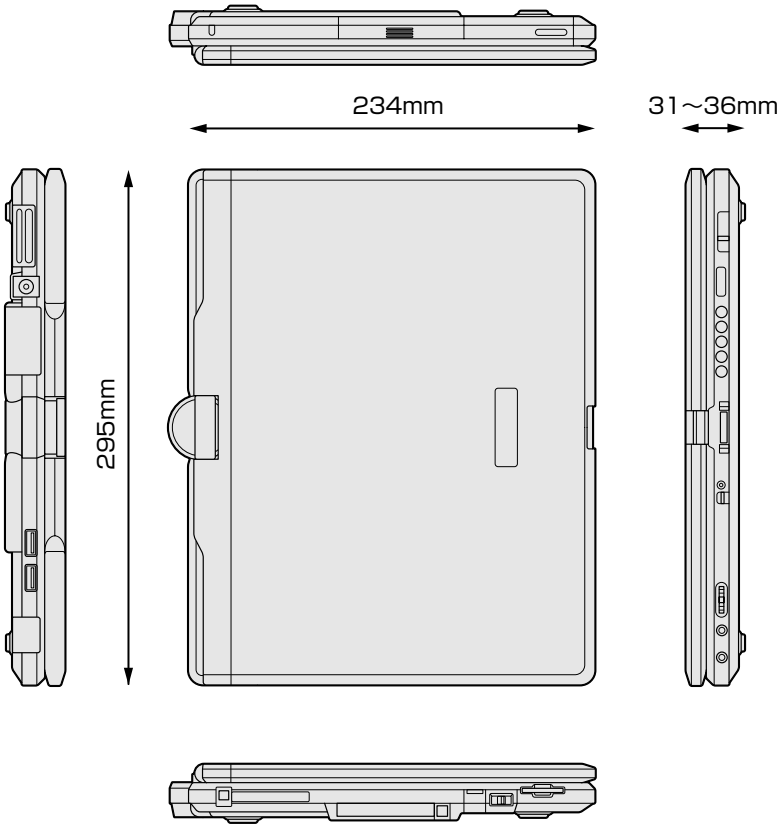
■ 消費電力

最大消費電力	45W（電源スイッチオン時）
最小消費電力	約1W（スタンバイ時）
	約0.5W（電源スイッチオフ時）

パソコンの電源を切った後に、電源コードを抜くと消費電力はゼロになります。
本機器は、「機器のリサイクルに適した設計」となっています。

外形寸法図

＊数値は突起部を含みません。



サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。
本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。
モードナンバは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバによってモードを指定してくる場合、そのナンバが図のナンバと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色数をもとに選択し直してください。

■ 横型表示

ビデオモード	形 式	解像度	フォントサイズ	色 数	CRTリフレッシュレート(Hz)
0.1	VGA テキスト	40 x 25字	8 x 8	16/256K	70
2,3		80 x 25字	8 x 8	16/256K	
0*,1*		40 x 25字	8 x 14	16/256K	
2*,3*		80 x 25字	8 x 14	16/256K	
0+,1+		40 x 25字	8(9) x 16	16/256K	
2+,3+		80 x 25字	8(9) x 16	16/256K	
4,5	VGA グラフィックス	320 x 200ドット	8 x 8	4/256K	
6		640 x 200ドット	8 x 8	2/256K	
7	VGA テキスト	80 x 25字	8(9) x 14	モノクロ	
7+		80 x 25字	8(9) x 16	モノクロ	
D	VGA グラフィックス	320 x 200ドット	8 x 8	16/256K	
E		640 x 200ドット	8 x 8	16/256K	
F		640 x 350ドット	8 x 14	モノクロ	
10		640 x 350ドット	8 x 14	16/256K	
11		640 x 480ドット	8 x 16	2/256K	60
12		640 x 480ドット	8 x 16	16/256K	
13		320 x 200ドット	8 x 8	256/256K	70

ビデオモード	形 式	解像度	フォントサイズ	色 数	CRTリフレッシュレート(Hz)
—	SVGA グラフィックス	640 x 480ドット	—	256/256K	60/75/85
—		800 x 600ドット	—	256/256K	
—		1024 x 768ドット	—	256/256K	
—		1280 x 1024ドット*1	—	256/256K	
—		1600 x 1200ドット*1	—	256/256K	60
—		640 x 480ドット	—	64K/64K	60/75/85
—		800 x 600ドット	—	64K/64K	
—		1024 x 768ドット	—	64K/64K	
—		1280 x 1024ドット*1	—	64K/64K	
—		1600 x 1200ドット*1	—	64K/64K	60
—		640 x 480ドット	—	16M/16M	60/75/85
—		800 x 600ドット	—	16M/16M	
—		1024 x 768ドット	—	16M/16M	60/75

*1： LCDで表示する場合、実際の画面（1024 × 768）内に、仮想スクリーン表示します。

（注） 一部の画面モードはディファレントリフレッシュレートモード、マルチモニターでは使用できません。

■ 縦型表示

ビデオモード	形 式	解像度	フォントサイズ	色 数	CRTリフレッシュレート(Hz)
4,5	VGA グラフィックス	200 x 320ドット	8 x 8	4/256K	70
6		200 x 640ドット	8 x 8	2/256K	
D		200 x 320ドット	8 x 8	16/256K	
E		200 x 640ドット	8 x 8	16/256K	
F		350 x 640ドット	8 x 14	モノクロ	
10		350 x 640ドット	8 x 14	16/256K	
11		480 x 640ドット	8 x 16	2/256K	60
12		480 x 640ドット	8 x 16	16/256K	
13		200 x 320ドット	8 x 8	256/256K	70
—	SVGA グラフィックス	480 x 640ドット*1	—	256/256K	60/75 /85
—		600 x 800ドット*1	—	256/256K	
—		768 x 1024ドット	—	256/256K	
—		1024 x 1280ドット*2	—	256/256K	
—		1200 x 1600ドット*2	—	256/256K	60
—		480 x 640ドット*1	—	64K/64K	60/75 /85
—		600 x 800ドット*1	—	64K/64K	
—		768 x 1024ドット	—	64K/64K	
—		1024 x 1280ドット*2	—	64K/64K	
—		1200 x 1600ドット*2	—	64K/64K	60
—		480 x 640ドット*1	—	16M/16M	60/75 /85
—		600 x 800ドット*1	—	16M/16M	
—		768 x 1024ドット	—	16M/16M	60/75

*1： ［画面のプロパティ］には「768 × 1024」と表示されます。
*2： LCDで表示する場合、実際の画面（768 × 1024）内に、仮想スクリーン表示します。

（注） 一部の画面モードはディファレントリフレッシュレートモード、マルチモニターでは使用できません。

ハードウェアリソースについて

メモリマップ、I/O ポートマップ、IRQ 使用リソース、DMA 使用リソースは次の方法で確認できます。
ご使用の環境（ハードウェア／ソフトウェア）によって変更される場合があります。

1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［システムツール］→［システム情報］をクリックする

2 画面左側のツリーから［ハードウェアリソース］をダブルクリックする

3 調べたい項目をクリックする

メモリマップ　　：［メモリ］
I/O ポートマップ　：［I/O］
IRQ 使用リソース　：［IRQ］
DMA 使用リソース　：［DMA］

モデムボードの取り付け / 取りはずし

モデムボードを取り付けることによって、モデム機能を使用できます。あらかじめモデムボードが取り付けられているモデルの場合は、取り付け／取りはずしの作業は必要ありません。また、モデムボードを取りはずした状態で本製品を使用しないでください。

⚠警告

・本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると危険です。

⚠注意

・モデムボードの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、AC アダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
・次のような場合、モデムボードの取り付け／取りはずしは行わないでください。内部が熱くなっているため、やけど、感電、故障のおそれがあります。
　・スタンバイ機能を実行中
　・LAN のウェイクアップ機能を設定しているとき
　・電源を切った直後
　　電源を切った後 30 分以上たってから、行うことをおすすめします。
・モデムボードを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。

お願い
- モデムの取り付け、取りはずし、PTT ラベルの確認以外の目的でパソコン本体のベースカバーを開けないでください。
- パソコンの内部にネジや異物を残さないでください。

【取り付け】

① Windows を終了して電源を切る
② パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
③ パソコン本体を裏返して、バッテリパックを取りはずす
④ 本体裏側の内蔵モデムカバーのネジ 1 本をはずし、カバーを取りはずす
⑤ モデムボードのネジ 2 本を取りはずす
⑥ 接続コードをモデムボードに取り付ける
⑦ モデムボードをパソコン本体に取り付ける
⑧ 手順⑤ではずしたモデムボードのネジ 2 本をとめる
⑨ 手順④ではずしたカバーをはめ、ネジ 1 本でとめる
⑩ バッテリパックを取り付ける

【取りはずし】

① Windows を終了して電源を切る

② パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

③ パソコン本体を裏返して、バッテリパックを取りはずす

④ 本体裏側の内蔵モデムカバーのネジ 1 本をはずし、カバーを取りはずす
PTT ラベルを確認することができます。

⑤ モデムボードのネジ 2 本を取りはずす

⑥ 接続コードをモデムボードから取りはずす

⑦ モデムボードをパソコン本体から取りはずす

⑧ 手順⑤ではずしたモデムボードのネジ 2 本をとめる

⑨ 手順④ではずしたカバーをはめ、ネジ 1 本でとめる

⑩ バッテリパックを取り付ける

2 無線LAN機能の仕様

■ 物理仕様

パワーセーブモード	45mA
受信モード	250mA
送信モード	350mA
供給電源	3.3V

■ 無線特性

無線 LAN の無線特性は、製品を購入した国、購入した製品の種類により異なる場合があります。
多くの場合、無線通信は使用する国の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない 2.4GHz 帯で動作するように設計されていますが、国の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。
各国で適用される無線規制については、同梱の別紙で「ユーザに対するお知らせ」を確認してください。

無線周波数帯	2.4GHz（2400-2483.5 MHz）			
変調方式	直接拡散方式 CCK（転送レート High、Medium） DQPSK（転送レート Standard） DBPSK（転送レート Low）			
拡散方式	11チップバーカーシーケンス			
ビットエラーレート（BER）	10^{-5} 以上			
定格出力	15 dBm			
転送レート	High Speed 11Mb/s	Medium Speed 5.5Mb/s	Standard Speed 2Mb/s	Low Speed 1Mb/s
受信感度	−83 dBm	−87 dBm	−91 dBm	−94 dBm
拡散遅延（FER 1%未満）	65 ns	225 ns	400 ns	500 ns

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ
- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る "障害物" がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

■ サポートする周波数帯域

無線 LAN がサポートする 2.4GHz 帯のチャネルは、国内で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線 IEEE802.11 チャネルセット」参照）。
各国で適用される無線規制については、「ユーザに対するお知らせ」をご覧ください。

無線 IEEE802.11 チャネルセット

周波数帯域	2400-2483.5 MHz *1
チャネルID	
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457 *1
11	2462

＊ 1：ご購入時に設定されるチャネルです。

無線 LAN のチャネル設定は次のように管理されます。

- インフラストラクチャで無線 LAN 接続する場合、ステーションが自動的に無線 LAN アクセスポイントのチャネルに切り替えます。異なるアクセスポイント間をローミングする場合は、ステーションが必要に応じて自動的にチャネルを切り替えます。ステーションはチャネル 1 から 11 までを切り替えます。無線 LAN アクセスポイントの設定チャネルもこの範囲にする必要があります。
- " ピア･ツー･ピア " モードで無線 LAN を接続する場合は、チャネル 10 が使用されます。

■ 無線 LAN の規格表示について

無線 LAN の規格に関する表示は、パソコン本体に貼られているラベルに記載されています。ラベルはパソコン本体からバッテリパックを取りはずすと確認できます。

参照 バッテリパックの取りはずし ➲「3 章 1-3 バッテリパックを交換する」

3 Bluetooth機能の仕様

■ 物理仕様

ワイヤレス通信	通信方式	Bluetooth Specification Ver.1.1
	無線周波数帯	2.4GHz（2402～2480MHz）
	変調方式	周波数ホッピング方式 2値FSK
	最大通信速度	約720kbps（非対称型通信時） 約430kbps（対称型通信時）
	出力 *1	最大＋4dBm（Power Class2）
	受信感度 *1	－70dBm
	通信距離	見通し10m *2
電源電圧		3.3V
消費電流		最大200mA

＊1：アンテナの効率は含まれません。

＊2：周囲の電波環境、障害物、設置環境などにより異なります。

■ 無線特性

Bluetooth モジュールの無線特性は、製品を購入した国、購入した製品の種類により異なる場合があります。
多くの場合、無線通信は使用する国の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz 帯で動作するように設計されていますが、国の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。
各国で適用される無線規制については、同梱の別紙で「ユーザに対するお知らせ」を確認してください。
無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ
- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る " 障害物 " がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

■ Bluetooth の規格表示について

Bluetooth の規格に関する表示は、パソコン本体に貼られているラベルに記載されています。ラベルはパソコン本体からバッテリパックを取りはずすと確認できます。

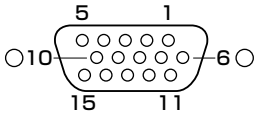
参照 バッテリパックの取りはずし ➲「3 章 1-3 バッテリパックを交換する」

2 各インタフェースの仕様

RGB インタフェース

ピン番号	信 号 名	意　味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	O
2	CGV	緑色ビデオ信号	O
3	CBV	青色ビデオ信号	O
4	Reserved	予約	
5	GND	信号グランド	
6	GND	信号グランド	
7	GND	信号グランド	
8	GND	信号グランド	
9	Reserved	予約	
10	GND	信号グランド	
11	Reserved	予約	
12	SDA	SDA通信信号	I/O
13	-CHSYNC	水平同期信号	O
14	-CVSYNC	垂直同期信号	O
15	SCL	SCLデータクロック信号	I/O

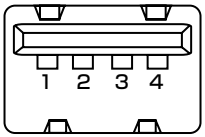
コネクタ図



高密度D-SUB 3列15ピンメス

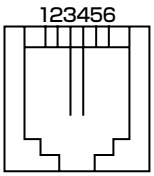
信号名：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

USB インタフェース

ピン番号	信 号 名	意　味	信号方向
1	VCC	+5V	
2	-Data	マイナスデータ	I/O
3	+Data	プラスデータ	I/O
4	GND	信号グランド	
コネクタ図			
			

信号名：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

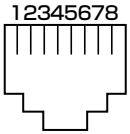
モデムインタフェース

ピン番号	信 号 名	意　味	信号方向
1	－	ノーコンタクト	
2	－	ノーコンタクト	
3	TIP	電話回線	I/O
4	RING	電話回線	I/O
5	－	ノーコンタクト	
6	－	ノーコンタクト	
コネクタ図			
			

信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

LAN インタフェース

ピン番号	信 号 名	意　味	信号方向
1	TX	送信データ（+）	O
2	-TX	送信データ（−）	O
3	RX	受信データ（+）	I
4	Unused	未使用	
5	Unused	未使用	
6	-RX	受信データ（−）	I
7	Unused	未使用	
8	Unused	未使用	
コネクタ図			



信号名：−がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

3 技術基準適合について

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人　電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスＢ情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

高調波対策について

本装置は、「高調波ガイドライン適合品」です。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

参照 省電力設定について ➲「3章 3 省電力の設定をする」

FCC information

Product name : PORTÉGÉ 3500

Model number : PP350

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING: *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's or external monitor port, USB port, and microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment. The modular cable that comes with the computer must be used to connect a modem.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

TOSHIBA

EU Declaration of Conformity

TOSHIBA declares, that the product: PP350* conforms to the following Standards:

Supplementary Information: "The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC and the EMC Directive 89/336/EEC and the R&TTE Directive 1999/05/EEC."

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項をお守りください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第 50 条 1 項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。

認定番号
A00-0940JP

●使用地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

（2002 年 11 月現在）

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域ではご使用になれません。ご注意ください。
内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムをご購入ください。
内蔵モデムに接続する回線が PBX 等を経由する場合は使用できない場合があります。
上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめご了承願います。

●自動再発信の制限

内蔵モデムは２回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を２回以下または再発信間隔を１分以上にしてください）。

＊ 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は２回以内（但し、最初の発信から３分以内）」に従っています。

お願い

- 雷雲が近づいてきたときは、モジュラープラグを電話回線用モジュラージャックから抜いてください。電話回線に落雷した場合、内蔵モデムやパソコン本体が破壊されるおそれがあります。
- 内蔵モデムを使用する場合は、ご使用になる地域にあわせて設定が必要です。

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).
However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.
In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.
The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. If has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem

- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
  For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.
Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can. In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.

In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.

In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

1 NOTICE: The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.
Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.
Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.
Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.
Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

2 The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem's label.

NOTICE: The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

3 The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.
The IC registration number of the modem is shown below.

CANADA: 1353 11026A

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the country/region selection is set to Australia.
The use of other country/region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.
To verify that the country/region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the country/region permanently to Australia, enter the following command sequence:

AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of $12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.

- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
  a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
  b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.

- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.

- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:

  a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and

  b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.

  c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.

- Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.

- The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:

  ATB0 (CCITT operation)
  AT&G2 (1800 Hz guard tone)
  AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
  ATS0=0 (not auto answer)
  ATS6=4 (Blind dial delay)
  ATS7=less than 90 (Time to wait to carrier after dialing)
  ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
  ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
  ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)

- When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value 3 or 4. This ensures:

(a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.

(b)caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.

- The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.

  Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

  Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1

  Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.

- The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.
  Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.

- It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.

- When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.

- This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as FaxAbility.

NOTE THAT FAULT CALLOUTS CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is $337.50. An additional charge of $337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. $112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for $NZ1237.50 will be sent under separate cover.

東芝 PC ダイヤルのご案内

パソコンの操作についてのお問い合わせは、東芝 PC ダイヤルにご連絡ください。

[お問い合わせの際には「お客様登録番号」をお伺いしております。あらかじめ「お客様登録（ユーザ登録）」いただきますようお願い申し上げます。]

東芝PCダイヤル

技術的なご質問、お問い合わせに電話でお答えします。
※受付時間／9：00 ～ 19：00
（祝日、12/31 ～ 1/3 を除く）

ナビダイヤル
全国共通電話番号 **0570-00-3100**（サポート料無料）

[電話番号は、お間違えのないようお確かめの上、おかけくださいますようお願いいたします。]

お客様からの電話は全国 6 箇所（千葉市、大阪市、名古屋市、福岡市、仙台市、札幌市）の最寄りの拠点に自動的に接続されます。

ナビダイヤルでは、ダイヤル後に通話区間料金のアナウンスが流れます。これはお客様から全国 6 箇所の最寄りの拠点までの通常電話料金で、サポート料金ではありません。

ナビダイヤルでは、NTT 以外とマイラインプラスをご契約の場合でも、自動的に NTT 回線を使用することになりますので、あらかじめご了承ください。

次のようなお電話は、上記の電話ではお受けできません。
該当されるお客様は、043-298-8780（直通）をご利用ください。

- 海外からのお電話
- 携帯電話、PHS
- NTT 以外の電話事業者を経由しての接続（0088、0077 など）
- 企業で一部使用されている契約回線
- 企業の PBX で「0570」が使用できない設定になっているもの

メモ

- α -LCR／Super-LCR などの設定でご使用のお電話は、設定を解除することで「0570-00-3100」をご利用いただけます（解除方法はお手持ちの『電話機に付属の説明書』をご覧ください）。
- 「東芝 PC FAX 情報サービス」からも、商品情報、Q&A などの情報を FAX（G3 規格）で入手することができます。
- 「東芝 PC テクノセンタ」（東京／大阪）では対面相談を受け付けております（技術相談／作業は有償）

参照 詳細について ➲『東芝 PC サポートのご案内』

トラブルチェックシート

Q.1 ご使用になっているパソコン名（型名）は？
（本体や取扱説明書をご覧ください）

機種名：

お客様登録番号：

下記の情報をお尋ねすることがございます。

（製造番号：　　、購入店：　　、購入日：　　など）

Q.2 ご使用になっているソフトウェア環境は？

Windows®XP Home など、お使いのシステムとアプリケーションをお知らせください

OS（システム名）：

その他：

Q.3 どのような症状が起こりましたか？

症状：

Q.4 その症状はどのような操作をした後、発生するようになりましたか？

操作内容：

Q.5 エラーメッセージなどは表示されましたか？

表示内容：

Q.6 その症状はどれくらいの頻度で発生しますか？

□一度発生したが、その後発生しない

□電源を切らないと発生するが、電源を切って再起動すれば発生しない

□電源を切ってから再起動しても必ず発生する

□その他：

Q.7 その症状が発生するのは決まった操作の後ですか？

□ある一定の操作をすると発生する

□どんな操作をしても発生する

□その他：

Q.8 インターネットや通信に関するご相談の場合

プロバイダ名：

使用モデム名：

使用回線：□内線発信アリ　□マイライン契約アリ　□ISDN　□携帯
□DSL／ケーブルTV

Q.9 お問い合わせの内容が周辺機器の場合、ご使用になっている周辺機器名は何ですか？

機器名（製品名）：

メーカー名：

オペレーティングシステムのバージョンやCPUの種類について東芝PCダイヤルから聞かれた場合は、［PC診断ツール］の［基本情報の表示］ボタンをクリックしてご確認ください。

さくいん

(記号)

(Windows)キー 80
(Windows)キーを使ったショートカットキー 85

(A)

AC アダプタ 16
AC アダプタの接続 21
Alt キー 80
Arrow Mode LED 81, 83
AT コマンド 112
Auto Power On 147

(B)

BackSpace キー 81
BATTERY 142
Battery LED 13, 63
Battery Save Mode 142
BIOS セットアップ 138
Bluetooth 122
Bluetooth サービスセンター ... 128
BOOT PRIORITY 148
Boot Priority 148
Break キー 81
Built-in HDD 150
Built-in LAN 151

(C)

Caps Lock LED 80, 86
Caps Lock 英数キー 80
CONFIGURATION 149
Controller Mode 150
CPU Cache 146
Ctrl キー 80

(D)

DC IN LED 13, 34
Del キー 81
Device Config. 149
Disk LED 13
DISPLAY 145
DRIVES I/O 150
DVD 再生 75
Dynamic CPU Frequency Mode 147

(E)

End 84
Enter/Menu ボタン 53
Enter キー 81
Esc キー 80

(F)

Fn キー 81
Fn キーを使った特殊機能キー 82

(H)

Hard Disk Mode 145
Home 84

(I)

Ins キー 81
Internal Pointing Device 145

(L)

LAN コネクタ 15, 114
LCD Display Stretch 146
LEGACY EMULATION 149
Level 2 Cache 147

(M)

MEMORY 142
MS-IME 87

(N)

Network Boot Protocol 148
Not Registered 142
Numeric Mode LED 81, 84

(O)

OTHERS 146

(P)

Panel Power On/Off 148
PASSWORD 142
Pause キー 81
PC CARD 150
PC Card 150
PCI BUS 149
PCI LAN 151
PC カードスロット 12, 91
PC カードの取り付け 91
PC カードの取りはずし 92
PERIPHERAL 145
PgDn 84
PgUp 84
Power LED 13, 34
Power On Display 145
Power-up Mode 146
PrtSc キー 81

(R)

Registered 142
RGB コネクタ 15, 100

(S)

SD メモリカードスロット ... 12, 93
SD メモリカードのセット 95
SD メモリカードの取り扱い 96
SD メモリカードの取りはずし 95
Shift キー 80, 81
Space キー 80
SysRq キー 81

(T)

Tablet PC 入力パネル 46
Tab キー 80
Total 142

(U)

USB KB/Mouse Legacy Emulation 149
USB-FDD Legacy Emulation 150
USB コネクタ 15

(W)

Windows Journal 48
Windows セキュリティ タブレットボタン 53
Windows セットアップ 25

（ア）

アプリケーションCD-ROM 210
アプリケーションキー 81
アロー状態.....83
安心してお使いいただくために 1

（イ）

インスタントセキュリティ機能 ...82

（エ）

液晶ディスプレイの取り扱い 19

（オ）

オーバレイキー 81
大文字ロック状態 86
オンラインマニュアル 1

（カ）

替え芯 16
書き込み可能状態 94
書き込み禁止状態 94
カタカナ／ひらがなキー..... 81
画面の向きを変える 55
漢字キー.....80
漢字変換.....87

（キ）

キーフロッピーディスク.....155
キーボード..... 13, 80
キーボードの取り扱い 86
起動するドライブを変更する場合
..... 37
休止状態.....70

（ク）

クリック（タッチパッド）..... 88
クリック（タッピング）.....89
クリック（タブレットペン）.....41

（コ）

コントロールパネル 165
コンパクトフラッシュカード
スロット 12, 97
コンパクトフラッシュカードの
セット 97
コンパクトフラッシュカードの
取り扱い 99
コンパクトフラッシュカードの
取り出し 98

（サ）

再セットアップ 209
座標軸を設定する 44

（シ）

システムインジケータ 13
消去（タブレットペン）.....41
消耗品 222
芯抜き 16
芯の交換.....42

（ス）

スーパーロングライフ 75
数字ロック状態 84
スクロール（タッピング）..... 89
スタンバイ 68
スピーカ..... 13, 15

(セ)

赤外線ポート 12
セキュリティロック・スロット ... 15

(ソ)

増設メモリスロット 103

(タ)

タッチパッド 13, 88
タッチパッドの取り扱い 90
タッチパッドを無効／有効にする 89
タッピング 89
縦（セカンダリ） 51
縦（プライマリ） 51
ダブルクリック（タッチパッド） 88
ダブルクリック（タッピング） 89
ダブルクリック（タブレットペン） 41
タブレットのボタン 13, 53
タブレットペン 16, 40
タブレットペンの収納 43
タブレットペンの取り扱い 41
タブレットペンの取り出し 43
タブレットモード 17, 50

(ツ)

通風孔 15

(テ)

テールスイッチ 40
ディスプレイ 13
ディスプレイ開閉ラッチ 13
ディスプレイを回転する 52
電源コード 16
電源コードの接続 21
電源コードの取り扱い 19
電源コネクタ 15
電源スイッチ 14
電源スイッチロック 14

(ト)

東芝 HW セットアップ 134
東芝 PC ダイヤル 262
東芝 Tablet Menu 54
東芝省電力ユーティリティ 74
時計用バッテリ 60
ドラッグアンドドロップ（タッチパッド） 88
ドラッグアンドドロップ（タッピング） 89
ドラッグアンドドロップ（タブレットペン） 41

(ナ)

内蔵マイク 13

(ニ)

日本語入力システム 87
入力モードの切り替え 87

(ネ)

ネットワークデバイススイッチ 121

(ノ)

ノーマル 75

(ハ)

パーティションを設定する.....219
ハイパワー.....75
パスワードとして使用できる文字
.....153
パソコン本体の取り扱い..... 18
バックライト用蛍光管 19
バッテリ駆動.....58
バッテリ駆動で使用できる時間 ...62
バッテリ充電量の確認 63
バッテリの充電時間 62
バッテリの充電方法 61
バッテリパック 16
バッテリパックの交換 66
バッテリ・リリースラッチ 16
バッテリロックスイッチ..... 16
パネルスイッチ機能 73
半／全キー.....80

(ヒ)

左ボタン.....13
表示装置の切り替え 100
標準システムインストール
起動ディスク 215

(フ)

ファンクションキー 80
フルパワー.....75
プレゼンテーション 75

(ヘ)

ヘッドホン出力端子 12
変換キー.....81
ペン先 40
ペンボタン.....40
ペンホルダ.....13

(ホ)

保守サービス 222
保守部品.....222
ボリュームダイヤル 12

(マ)

マイク入力端子 12

(ミ)

右クリック（タブレットペン）.... 41
右ボタン.....13

(ム)

無線 LAN 115
無変換キー.....80

(メ)

メモリスロットA 13
メモリスロットB 16
メモリの交換（スロットA）.....107
メモリの取り付け（スロットB）
.....105
メモリの取りはずし（スロットB）
.....106
メモリ容量の確認 110

(モ)

モジュラーケーブル 16
モジュラーケーブルの取り付け 112
モジュラージャック 12
モデムの地域設定を変更する....113

(ヤ)

矢印キー 81
矢印ボタン（1） 53
矢印ボタン（2） 53

(ユ)

ユーザ登録 32
ユーザパスワードの削除 157
ユーザパスワードの登録 154
ユーザパスワードを忘れてしまった
　　場合 159

(ヨ)

横（セカンダリ） 51
横（プライマリ） 51

(ラ)

ライトプロテクトタブ 94
ラップトップモード 17

(リ)

リカバリ 209
リカバリ CD-ROM 210
リッドスイッチ 14
リリース情報 1

(ロ)

ローマ字キー 81
ロングライフ 75

(ワ)

ワイヤレスコミュニケーション LED
　　..... 13, 120, 125
ワイヤレスコミュニケーション
　　スイッチ 12, 119, 125